

成績概要 成虫ニ對シテハ病害豫防ヲ兼ネ三斗式等量石灰ボルドウ液一斗ニ粉狀砒酸鉛二十ノ割合ニ加用シ瓜類ノ葉莖ニ常ニ撒布スルヲ最モ理想的トス、幼虫ニ對シテハ靑酸加里二百倍液ノ灌注最モ有効ニシテ且ツ瓜類ノ根及生育ニ何等ノ影響ヲ得ザリシ

八、大根ノ螟蟲ニ關スル試驗及調査

イ、防除ニ關スル試驗

目的 防除劑ノ効果ヲ比較調査セントス

方法 被害作物ヲ栽培シ本葉一葉發生シタル時ヨリ五日目毎ニ四回ノ捕殺或ハ藥劑撒布ヲナシ被害歩合ヲ比較調査ス

試驗區別	被害歩合%				備考
	芝罘白菜	縮緬白菜	蕪青	大根平均	
一、標準 (無豫防)	八六、四	九四、〇	一、〇	二五、七	イ、被害歩合少ナキモノハ効果大ナルモノノス ロ、平均被害率ノ計算ニハ蕪青ヲ除ク ハ、撒布時期ハ作物ニ依リ異ナルモ第一回撒布本葉一二葉ノ時第二回撒布本葉三四葉ノ時第三回撒布本葉五六葉ノ時第四回撒布本葉七八葉ノ時ノ四回撒布トス ニ、被害歩合ハ被害株數ヲ單位トシテ計算ス
二、捕殺 (五日目毎四回)	一九、六	七八、〇	〇、六	一一、九	
三、砒酸鉛石鹼液砒酸鉛粉狀	七、六	三〇、〇	〇	二、八	
四、砒酸鉛カゼイン石灰液砒酸鉛粉狀	九、四	二六、〇	〇	五、九	
五、除蟲菊石鹼液除蟲菊二〇斗	四、〇	一一、〇	〇	三、〇	
六、砒酸鉛加用除蟲菊石鹼液	三、八	一四、〇	〇	五、一	

尙驅蟲用煙草粉末反當六貫匁乃至十貫匁ノ撒布除蟲菊木灰一對一〇乃至一對三〇ノモノ撒布ヲ撒布シ驅除ノ効果ヲ試驗セシモ被害歩合煙草粉末平均八四%除蟲菊木灰平均六四%ニシテ驅除ノ効果薄弱ナリシ

本試驗ノ成績ニ依レバ本蟲ハ砒酸鉛加用除蟲菊石鹼液ノ撒布ニテ略完全ニ防除シ得ルモノト信ズ然レドモ撒布ノ時期ハ發芽後本葉一、二葉ノ時既ニ藥劑ノ撒布ヲ開始セザレバ充分ナル効果ヲ認メラザルモノナルヲ以テ第一回ノ撒布時期ヲ誤ラザル様意注ヲ要スルモノトス

ロ、藥劑ノ殺蟲力ニ關スル試驗

目的 卵及幼蟲ノ殺蟲劑ニ對スル抵抗力ヲ調査セントス

方法 卵及幼蟲ニ各種ノ殺蟲劑ヲ撒布シ生死ノ歩合並ニ死ニ至ル時間等ヲ調査ス

試驗區別	三令幼蟲死滅歩合	致死時間	四令幼蟲死滅歩合	致死時間
一、除蟲菊石鹼液 各二十匁水一斗	六〇%	〇、三〇時	一〇%	〇、三〇
二、〃 各二十五匁	一〇〇%	〇、二〇	五〇%	〇、三〇
三、〃 各三十匁	一〇〇%	〇、二〇	八〇%	〇、三〇
四、硫酸ニコチン六百倍液水一斗ニ石鹼十五匁加用	一〇〇%	〇、二〇	六〇%	〇、三〇
五、〃 八百倍液	九〇%	〇、二〇	四〇%	〇、三〇
六、〃 千倍液	六〇%	〇、三〇	〇%	〇、三〇
七、スプレーオイル三十倍液	六〇%	〇、三〇	二〇%	〇、三〇

八、ク	五十倍液	三〇%	〇、三〇	〇%	〇、三〇
九、	エバグリン二百倍液一斗ニ石鹼九十五匁加用	一〇〇%	〇、一五	一〇〇%	〇、一〇

成績ノ概要 本蟲ハ藥劑ニ對スル抵抗力三令以後ノモノハ比較的強ク除蟲菊石鹼液三十匁或硫酸ニコチン六百倍液一斗石鹼十五匁加用シタルモノ、エバグリン二百倍液一斗ニ石鹼十五匁加用シタルモノ相當大ナル殺虫力ヲ示ス

ハ、野外ニ於ケル發生狀況調査

目的 螟蛾ノ野外ニ於ケル發生狀況ヲ知ラントス

方法 被害最モ多キ白菜ヲ七月上旬ヨリ十日目毎ニ播種シ被害有無多少ヲ調査セシニ七月中旬迄デノ播種ハ殆ンド被害ナク七月下旬播種種々被害アリ、八月上中下旬播種ハ被害甚大ニシテ九月上中下旬播種ハ被害稍少ナク十月上中下旬播種ニ至リテハ殆ンド被害ヲ認メザリシ

第三 病菌害虫道府縣連絡調査

一、二化螟虫第二化期被害率並ニ被害額ニ關スル調査

イ、被害率調査

昭和四年度縣内平均被害率六、五二%

ロ、被害額調査

昭和四年度縣内被害額 九萬八千八百八十七石

昭和四年度縣内損害高六拾九萬二千七百七十五圓(石二十五圓トシテ計算)

備考

縣内平均早中晚稻別被害率

早稻 八、〇八% 中稻 六、一四% 晚稻 五、三四%

縣内實收量 一八五一八二六、〇〇〇石

縣内標準收量 一九五〇七一三、〇〇〇石

縣内作付反別 一〇五三三五、二〇〇町

調査箇所數 十四ヶ所

調査方法ノ種類 本省改正案

其他從來ノ調査ハ首稻熱病 節稻熱病、菌核病稿葉枯病等ノ被害穗莖ヲ螟虫ノ被害ト混同セルノ觀アリシモ本年度ハ其等ノ障害穗莖ヲ區別シ調査ノ上玄米重量ニ依リ被害率ニ算出ス

尙本年度ハ例年ニ比シ二化螟虫第二化期ノ被害ハ普通ノ年柄ナリシ縣内實收量縣内作付反別ハ本縣統計課ノ調査ニ依ル縣内標準收量縣内被害額ハ左ノ方法ニヨリ之レヲ求ム

1. 縣内實收量 + [(縣内實收量) × (縣内平均被害率)] = 縣内標準收量
2. (縣内標準收量) - 縣内實收量 = (縣内被害額)

二化螟虫第二化期被害率調査

調査地	事項	早稲	中稲	晚稲				
印旛郡和田村高岡 高岡實行組合	品 種 名 刈 取 月 日	撰 出 九月廿四日	國 關	取				
					一坪健全莖數(本)	四三九本	一〇、六本	一〇、二八本
					同上 收量(匁)	一九二	三八六	六六六
					一坪被害莖數(本)	一八五	二二七	二八一
					同上 收量(匁)	六三	一七八	一六
					一坪小穂莖數	一七〇	七五	三
					同上 收量	二九	二二〇	五二
					一坪障害穂莖數	一四〇	三〇	二一
					同上 收量	九三四	二五〇	三四九
					一坪總莖數(本)	二九三	八〇六	七八〇
同上 收量(匁)	八七、九〇〇	三三六	三三〇					
反當 收量(貫)		一〇〇、八〇〇	九六、〇〇〇					

調査地	事項	早稲	中稲	晚稲				
印旛郡公津村北須賀 山崎民司	品 種 名 刈 取 月 日	千 葉 一 號	愛 國	小 峰				
					一坪標準收量	三五四、四〇〇	三四三、一五	三三〇、七五
					反當標準收量	一〇六、三二〇	一〇二、九四〇	九九二、二五
					被害莖玄米一升重量(匁)	三四八	三四一	三三三
					健全莖玄米一升重量	三六二	三四六	三五九
					總計玄米一升重量	三五六	三四五	三五七
					被害率(%)	一七、二七	一九、五	三、二五
					同上 收量	九、二〇	一〇、七	一〇、二七
					一坪健全莖數(本)	六三七	四五三	五八三
					同上 收量(匁)	二五七	二六二	三二二
一坪被害莖數(本)	二四	五八	三九					
同上 收量(匁)	六	二〇	一五					
一坪小穂莖數	一六四	一一一	五五					
同上 收量	三〇	二七	一二					
一坪障害穂莖數	一八〇	一二七	一〇九					
同上 收量	三七	五	七					
一坪總莖數(本)	一、〇〇五	七五九	七八六					
同上 收量(匁)	三三〇	三一四	三四六					

印旛郡白井町白井		半谷義一	
刈取	品名	種類	月日
反當	收量	一坪標準收量	九九、〇〇〇
反當標準收量	(貫)	一坪標準收量	三三三、六八
被害莖玄米一升重量	(匁)	健全莖玄米一升重量	一〇〇、一〇四
健全莖玄米一升重量	(匁)	總計玄米一升重量	二六一
被害率 (%)			三四七
刈取	品名	種類	月日
一坪健全莖數	(本)	同上收量	九、二二三
同上收量	(匁)	一坪被莖莖數	五九四
一坪被莖莖數	(本)	同上收量	一五八
同上收量	(匁)	一坪小穗莖數	三〇
同上收量	(匁)	同上收量	六
同上收量	(匁)	同上收量	三六八
同上收量	(匁)	同上收量	四四
同上收量	(匁)	同上收量	二七八
同上收量	(匁)	同上收量	三七
吉			
反當	收量	一坪標準收量	九四、二〇〇
反當標準收量	(貫)	一坪標準收量	三二〇、六四
被害莖玄米一升重量	(匁)	健全莖玄米一升重量	九六、一八二
健全莖玄米一升重量	(匁)	總計玄米一升重量	三三三
被害率 (%)			三七四
刈取	品名	種類	月日
一坪健全莖數	(本)	同上收量	一〇、五
同上收量	(匁)	一坪被莖莖數	四七八
一坪被莖莖數	(本)	同上收量	二七〇
同上收量	(匁)	一坪小穗莖數	一六七
同上收量	(匁)	同上收量	三二
同上收量	(匁)	同上收量	九六
同上收量	(匁)	同上收量	二五
同上收量	(匁)	同上收量	九二
同上收量	(匁)	同上收量	一七
愛			
反當	收量	一坪標準收量	一〇三、八〇〇
反當標準收量	(貫)	一坪標準收量	三五、八七
被害莖玄米一升重量	(匁)	健全莖玄米一升重量	一〇五、五六一
健全莖玄米一升重量	(匁)	總計玄米一升重量	三三三
被害率 (%)			三七一
刈取	品名	種類	月日
一坪健全莖數	(本)	同上收量	一〇、二三
同上收量	(匁)	一坪被莖莖數	四二六
一坪被莖莖數	(本)	同上收量	三九三
同上收量	(匁)	一坪小穗莖數	二〇七
同上收量	(匁)	同上收量	一〇一
同上收量	(匁)	同上收量	八六
同上收量	(匁)	同上收量	一三
同上收量	(匁)	同上收量	二九
同上收量	(匁)	同上收量	二〇
高砂撰出			
反當	收量	一坪標準收量	一〇三、八〇〇
反當標準收量	(貫)	一坪標準收量	三五、八七
被害莖玄米一升重量	(匁)	健全莖玄米一升重量	一〇五、五六一
健全莖玄米一升重量	(匁)	總計玄米一升重量	三三三
被害率 (%)			三七一
刈取	品名	種類	月日
一坪健全莖數	(本)	同上收量	一〇、二三
同上收量	(匁)	一坪被莖莖數	四二六
一坪被莖莖數	(本)	同上收量	三九三
同上收量	(匁)	一坪小穗莖數	二〇七
同上收量	(匁)	同上收量	一〇一
同上收量	(匁)	同上收量	八六
同上收量	(匁)	同上收量	一三
同上收量	(匁)	同上收量	二九
同上收量	(匁)	同上收量	二〇

印旛郡三ヶ所平均		香取郡多古町	
刈取	品名	種類	月日
反當	收量	一坪標準收量	一二七〇
反當標準收量	(貫)	一坪標準收量	二四五
被害莖玄米一升重量	(匁)	健全莖玄米一升重量	七三、五〇〇
健全莖玄米一升重量	(匁)	總計玄米一升重量	四〇一、九八
被害率 (%)			一二一、四九四
刈取	品名 <td>種類</td> <td>月日</td>	種類	月日
一坪健全莖數	(本)	同上收量	二八六
同上收量	(匁)	一坪被莖莖數	二八六
一坪被莖莖數	(本)	同上收量	三七六
同上收量	(匁)	一坪小穗莖數	三七三
同上收量	(匁)	同上收量	三、九五
同上收量	(匁)	同上收量	三、九五
同上收量	(匁)	同上收量	七、四四
同上收量	(匁)	同上收量	九、二五
同上收量	(匁)	同上收量	五七九
同上收量	(匁)	同上收量	二四八
同上收量	(匁)	同上收量	八七
同上收量	(匁)	同上收量	二八
早生愛國			
反當	收量	一坪標準收量	八三〇
反當標準收量	(貫)	一坪標準收量	三四四
被害莖玄米一升重量	(匁)	健全莖玄米一升重量	一〇三、一〇〇
健全莖玄米一升重量	(匁)	總計玄米一升重量	四三七、三六
被害率 (%)			一三一、二〇八
刈取	品名 <td>種類</td> <td>月日</td>	種類	月日
一坪健全莖數	(本)	同上收量	三五六
同上收量	(匁)	一坪被莖莖數	三五六
一坪被莖莖數	(本)	同上收量	三七五
同上收量	(匁)	一坪小穗莖數	三六九
同上收量	(匁)	同上收量	二一、三四
同上收量	(匁)	同上收量	八、四五
同上收量	(匁)	同上收量	一〇、一三
同上收量	(匁)	同上收量	三一五
同上收量	(匁)	同上收量	一九八
同上收量	(匁)	同上收量	七八
同上收量	(匁)	同上收量	一八
無芒愛國			
反當	收量	一坪標準收量	八四八
反當標準收量	(貫)	一坪標準收量	三七四
被害莖玄米一升重量	(匁)	健全莖玄米一升重量	一一二、一〇〇
健全莖玄米一升重量	(匁)	總計玄米一升重量	五六〇、三五
被害率 (%)			一六八、一〇五
刈取	品名 <td>種類</td> <td>月日</td>	種類	月日
一坪健全莖數	(本)	同上收量	三八一
同上收量	(匁)	一坪被莖莖數	三九三
一坪被莖莖數	(本)	同上收量	三七七
同上收量	(匁)	一坪小穗莖數	二七、二四
同上收量	(匁)	同上收量	一〇、七二
同上收量	(匁)	同上收量	一〇、二八
同上收量	(匁)	同上收量	五四六
同上收量	(匁)	同上收量	二七四
同上收量	(匁)	同上收量	一一
同上收量	(匁)	同上收量	八
撰			
反當	收量	一坪標準收量	八四八
反當標準收量	(貫)	一坪標準收量	三七四
被害莖玄米一升重量	(匁)	健全莖玄米一升重量	一一二、一〇〇
健全莖玄米一升重量	(匁)	總計玄米一升重量	五六〇、三五
被害率 (%)			一六八、一〇五
刈取	品名 <td>種類</td> <td>月日</td>	種類	月日
一坪健全莖數	(本)	同上收量	三八一
同上收量	(匁)	一坪被莖莖數	三九三
一坪被莖莖數	(本)	同上收量	三七七
同上收量	(匁)	一坪小穗莖數	二七、二四
同上收量	(匁)	同上收量	一〇、七二
同上收量	(匁)	同上收量	一〇、二八
同上收量	(匁)	同上收量	五四六
同上收量	(匁)	同上收量	二七四
同上收量	(匁)	同上收量	一一
同上收量	(匁)	同上收量	八

香取郡中和村		宮崎政藏	
一坪小穂莖數	一八五	一八八	一一二
同上收量	四〇	五七	二六
一坪障害穂莖數	三三二	八七	二一五
同上收量	九七	二七	一六
一坪總莖數(本)	八八三	六七八	八九五
同上收量(匁)	三三三	三〇〇	三三四
反當收量	九〇,九〇〇	九〇,〇〇〇	九七,三〇〇
一坪標準收量(匁)	三三三,四一	三三一,一四	三三一,〇五
反當標準收量	九九,七二三	九九,三四二	九六,四五〇
被害莖玄米一升重量(匁)	三七三	三六〇	三二〇
健全莖玄米一升重量(匁)	四〇九	三八〇	三九一
總計玄米一升重量	三三七	三七九	三八三
被害率(%)	一一,八八四	一一,九四〇	一六,八〇〇
品種名	早生銀坊	中生愛國	撰
刈取年月日	三一九二四	一〇一九二二	一一二〇二〇
一坪健全莖數	八一	八八四	七九六
同上收量	三三四	四二九	三二〇

香取郡佐原町		合泰	
一坪被害莖數	一四六	八二	一五二
同上收量	三八	二三	二〇
一坪小穂莖數	三〇	三〇	三〇
同上收量	三〇	三〇	三〇
一坪障害穂莖數	一八	一八	一八
同上收量	九五七	九六六	九四八
一坪總莖數	一五六	一五六	一五六
同上收量	三七二	四五二	三四〇
反當收量	一一一,六〇〇	一三五,六〇〇	一〇二,〇〇〇
一坪標準收量(匁)	三九三,八六	四六七,五四	三八〇,八〇
反當標準收量(匁)	一一八,一五八	一四〇,二六二	一二四,二四〇
被害莖玄米一升重量	三八〇	三九〇	三九〇
健全莖玄米一升重量	三八〇	三九〇	三九〇
總計玄米一升重量	三八〇	三九〇	三九〇
被害率(%)	五,五六	三,三二	一〇,七一
品種名	寶玉	愛國	銀坊主
刈取年月日	九,一六	九,二五	一〇,九

官崎留吉		香取郡三ヶ所平均	
一坪健全莖數	六一〇	一坪健全莖數	九、四三
同 上 莖數	四三七	同 上 莖數	七、四六
一坪被害莖數	二三五	一坪被害莖數	四八五
同 上 莖數	八五	同 上 莖數	一三五
一坪小穗莖數	八八九	一坪小穗莖數	三六
同 上 莖數	八八九	同 上 莖數	八五
一坪障害穗莖數	八八九	一坪障害穗莖數	八八九
同 上 莖數	八八九	同 上 莖數	八八九
一坪總莖數	八八九	一坪總莖數	八八九
同 上 莖數	八八九	同 上 莖數	八八九
反當收量	五二二	反當收量	五二二
一坪標準收量	一五六、六〇〇	一坪標準收量	一五六、六〇〇
反當標準收量(貫)	六〇六、二	反當標準收量(貫)	六〇六、二
被害莖玄米一升重量	一八一、八六〇	被害莖玄米一升重量	一七三、〇四〇
總計玄米一升重量	三〇〇	總計玄米一升重量	三三〇
被害率	一三、八九	被害率	三六五
備考	九、四三	備考	九、六七
備	七、四六	備	一七、四三
被害率 (%)	九、四三	被害率 (%)	九、三八

長生郡一宮町		長生郡長柄村		長生郡豐榮村		長生郡石井清五郎		長生郡道脇善夫		長生郡大和久林三		長生郡大和久文夫	
刈取月日	九、一三	刈取月日	九、一三	刈取月日	九、一三	刈取月日	九、一三	刈取月日	九、一三	刈取月日	九、一三	刈取月日	九、一三
一坪健全莖數	六三一	一坪健全莖數	六三一	一坪健全莖數	六三一	一坪健全莖數	六三一	一坪健全莖數	六三一	一坪健全莖數	六三一	一坪健全莖數	六三一
同 上 莖數	二〇九	同 上 莖數	二〇九	同 上 莖數	二〇九	同 上 莖數	二〇九	同 上 莖數	二〇九	同 上 莖數	二〇九	同 上 莖數	二〇九
一坪被害莖數(本)	一一九	一坪被害莖數(本)	一一九	一坪被害莖數(本)	一一九	一坪被害莖數(本)	一一九	一坪被害莖數(本)	一一九	一坪被害莖數(本)	一一九	一坪被害莖數(本)	一一九
同 上 收量(匁)	五	同 上 收量(匁)	五	同 上 收量(匁)	五	同 上 收量(匁)	五	同 上 收量(匁)	五	同 上 收量(匁)	五	同 上 收量(匁)	五
一坪小穗莖數	六七	一坪小穗莖數	六七	一坪小穗莖數	六七	一坪小穗莖數	六七	一坪小穗莖數	六七	一坪小穗莖數	六七	一坪小穗莖數	六七
同 上 收量	六	同 上 收量	六	同 上 收量	六	同 上 收量	六	同 上 收量	六	同 上 收量	六	同 上 收量	六
一坪障害穗莖數(本)	六	一坪障害穗莖數(本)	六	一坪障害穗莖數(本)	六	一坪障害穗莖數(本)	六	一坪障害穗莖數(本)	六	一坪障害穗莖數(本)	六	一坪障害穗莖數(本)	六
同 上 收量(匁)	三	同 上 收量(匁)	三	同 上 收量(匁)	三	同 上 收量(匁)	三	同 上 收量(匁)	三	同 上 收量(匁)	三	同 上 收量(匁)	三
一坪總莖數	八二六	一坪總莖數	八二六	一坪總莖數	八二六	一坪總莖數	八二六	一坪總莖數	八二六	一坪總莖數	八二六	一坪總莖數	八二六
同 上 收量	二二四	同 上 收量	二二四	同 上 收量	二二四	同 上 收量	二二四	同 上 收量	二二四	同 上 收量	二二四	同 上 收量	二二四
反當收量(貫)	六四、二〇〇	反當收量(貫)	六四、二〇〇	反當收量(貫)	六四、二〇〇	反當收量(貫)	六四、二〇〇	反當收量(貫)	六四、二〇〇	反當收量(貫)	六四、二〇〇	反當收量(貫)	六四、二〇〇
一坪標準收量	二四八、三	一坪標準收量	二四八、三	一坪標準收量	二四八、三	一坪標準收量	二四八、三	一坪標準收量	二四八、三	一坪標準收量	二四八、三	一坪標準收量	二四八、三
反當標準收量(貫)	七四、四七〇	反當標準收量(貫)	七四、四七〇	反當標準收量(貫)	七四、四七〇	反當標準收量(貫)	七四、四七〇	反當標準收量(貫)	七四、四七〇	反當標準收量(貫)	七四、四七〇	反當標準收量(貫)	七四、四七〇
被害莖玄米一升重量	三三〇	被害莖玄米一升重量	三三〇	被害莖玄米一升重量	三三〇	被害莖玄米一升重量	三三〇	被害莖玄米一升重量	三三〇	被害莖玄米一升重量	三三〇	被害莖玄米一升重量	三三〇
健全莖玄米一升重量	三四五	健全莖玄米一升重量	三四五	健全莖玄米一升重量	三四五	健全莖玄米一升重量	三四五	健全莖玄米一升重量	三四五	健全莖玄米一升重量	三四五	健全莖玄米一升重量	三四五
總計玄米一升重量	三四五	總計玄米一升重量	三四五	總計玄米一升重量	三四五	總計玄米一升重量	三四五	總計玄米一升重量	三四五	總計玄米一升重量	三四五	總計玄米一升重量	三四五

長生郡三ヶ所平均		君津郡長浦村		今井福次	
被害率 (%)	備考	被害率 (%)	備考	被害率 (%)	備考
一三、七九		一三、七九		一三、七九	
一〇、一七		〇、一七		〇、一七	
二、五八		二、五八		二、五八	
一〇、一八		一〇、一八		一〇、一八	
七、五		七、五		七、五	
三、一〇		三、一〇		三、一〇	
六、〇		六、〇		六、〇	
一、五		一、五		一、五	
二、六一		二、六一		二、六一	
三、三二		三、三二		三、三二	
一〇、七一		一〇、七一		一〇、七一	
三、五七		三、五七		三、五七	
二、〇七、二〇〇		二、〇七、二〇〇		二、〇七、二〇〇	
三、六七、〇		三、六七、〇		三、六七、〇	
一〇、一〇、〇〇		一〇、一〇、〇〇		一〇、一〇、〇〇	
二二〇、八四〇		二二〇、八四〇		二二〇、八四〇	
四〇、二、八		四〇、二、八		四〇、二、八	
一、二五、八〇〇		一、二五、八〇〇		一、二五、八〇〇	
三、八六		三、八六		三、八六	
八、四〇		八、四〇		八、四〇	
四、一		四、一		四、一	
一、八一		一、八一		一、八一	
一、八一		一、八一		一、八一	
四、四三		四、四三		四、四三	
二、四三		二、四三		二、四三	
二、二六		二、二六		二、二六	
一、〇二		一、〇二		一、〇二	
四、四三		四、四三		四、四三	
九、一八		九、一八		九、一八	
一三、七九		一三、七九		一三、七九	

君津郡吉野村
白井兼吉

被害率 (%)	備考	被害率 (%)	備考	被害率 (%)	備考
四〇〇		四〇〇		四〇〇	
四〇〇		四〇〇		四〇〇	
四〇〇		四〇〇		四〇〇	
三、九三		〇、一五		二、七二	
九、一七		九、二六		一〇、二八	
五、九		六、八八		八、四四	
二、七		二、八七		三、八八	
一、五五		一、九二		一、五九	
八〇		八〇		六、五	
一、三五		一、六九		五、〇	
四〇		六、三		一、五	
一、一〇		四、九		四、七	
九、九		一〇、九三		一、一〇〇	
三、九七		四、三〇		四、六八	
一、一九、一〇〇		一、二九、〇〇〇		一、四〇、四〇〇	
三、八八、三〇		四、三〇、六四		四、七六、一四	

君津郡富岡村
栗原幸次

刈取月日	品名	被害率(%)	健全莖玄米一升重量	被害莖玄米一升重量	反當標準收量(貫)
一坪健全莖數	同上	同上	同上	同上	一二六、四九〇
一坪被害莖數(本)	同上	同上	同上	同上	一二九、一九二
同上收量(匁)	同上	同上	同上	同上	三六八
同上收量(匁)	同上	同上	同上	同上	三八六
一坪小穗莖數	同上	同上	同上	同上	三九三
同上收量	同上	同上	同上	同上	三九六
一坪障害穗莖數	同上	同上	同上	同上	三九五
同上收量	同上	同上	同上	同上	〇、一五
一坪總莖數	同上	同上	同上	同上	九、二五
同上收量	同上	同上	同上	同上	五二五
反當收量	同上	同上	同上	同上	二五三
	同上	同上	同上	同上	一五一
	同上	同上	同上	同上	六二
	同上	同上	同上	同上	一一二
	同上	同上	同上	同上	二五
	同上	同上	同上	同上	一一〇
	同上	同上	同上	同上	九〇〇
	同上	同上	同上	同上	三五〇
	同上	同上	同上	同上	一〇五、〇〇〇
	同上	同上	同上	同上	一〇八、二二〇
	同上	同上	同上	同上	三六〇、四
	同上	同上	同上	同上	三六〇
	同上	同上	同上	同上	三五〇
	同上	同上	同上	同上	三五六
	同上	同上	同上	同上	三四九
	同上	同上	同上	同上	二、八九
	同上	同上	同上	同上	一、〇六
	同上	同上	同上	同上	四、二九
	同上	同上	同上	同上	一〇、三
	同上	同上	同上	同上	二六二
	同上	同上	同上	同上	一四七
	同上	同上	同上	同上	一七七
	同上	同上	同上	同上	八三
	同上	同上	同上	同上	三四
	同上	同上	同上	同上	一〇五、〇〇〇
	同上	同上	同上	同上	一二二、六二〇
	同上	同上	同上	同上	三七五、四
	同上	同上	同上	同上	三六〇
	同上	同上	同上	同上	三八〇
	同上	同上	同上	同上	三六四
	同上	同上	同上	同上	一、九七
	同上	同上	同上	同上	二、一三
	同上	同上	同上	同上	六、二三
	同上	同上	同上	同上	一一、五
	同上	同上	同上	同上	六四九
	同上	同上	同上	同上	二〇一
	同上	同上	同上	同上	二
	同上	同上	同上	同上	一、五
	同上	同上	同上	同上	八一

君津郡三ヶ所平均
四郡平均
調査地
千葉郡都村
千葉縣農事試驗場

刈取月日	品名	被害率(%)	健全莖玄米一升重量	被害莖玄米一升重量	反當標準收量(貫)
一坪健全莖數(本)	同上	同上	同上	同上	一二六、四九〇
同上收量(匁)	同上	同上	同上	同上	一二九、一九二
一坪被害莖數(本)	同上	同上	同上	同上	三六八
同上收量(匁)	同上	同上	同上	同上	三八六
一坪小穗莖數	同上	同上	同上	同上	三九三
同上收量	同上	同上	同上	同上	三九六
一坪障害穗莖數	同上	同上	同上	同上	三九五
同上收量	同上	同上	同上	同上	〇、一五
一坪總莖數	同上	同上	同上	同上	九、二五
同上收量	同上	同上	同上	同上	五二五
反當收量	同上	同上	同上	同上	二五三
	同上	同上	同上	同上	一五一
	同上	同上	同上	同上	六二
	同上	同上	同上	同上	一一二
	同上	同上	同上	同上	二五
	同上	同上	同上	同上	一一〇
	同上	同上	同上	同上	九〇〇
	同上	同上	同上	同上	三五〇
	同上	同上	同上	同上	一〇五、〇〇〇
	同上	同上	同上	同上	一〇八、二二〇
	同上	同上	同上	同上	三六〇、四
	同上	同上	同上	同上	三六〇
	同上	同上	同上	同上	三五〇
	同上	同上	同上	同上	三五六
	同上	同上	同上	同上	三四九
	同上	同上	同上	同上	二、八九
	同上	同上	同上	同上	一、〇六
	同上	同上	同上	同上	四、二九
	同上	同上	同上	同上	一〇、三
	同上	同上	同上	同上	二六二
	同上	同上	同上	同上	一四七
	同上	同上	同上	同上	一七七
	同上	同上	同上	同上	八三
	同上	同上	同上	同上	三四
	同上	同上	同上	同上	一〇五、〇〇〇
	同上	同上	同上	同上	一二二、六二〇
	同上	同上	同上	同上	三七五、四
	同上	同上	同上	同上	三六〇
	同上	同上	同上	同上	三八〇
	同上	同上	同上	同上	三六四
	同上	同上	同上	同上	一、九七
	同上	同上	同上	同上	二、一三
	同上	同上	同上	同上	六、二三
	同上	同上	同上	同上	一一、五
	同上	同上	同上	同上	六四九
	同上	同上	同上	同上	二〇一
	同上	同上	同上	同上	二
	同上	同上	同上	同上	一、五
	同上	同上	同上	同上	八一

調查地
千葉縣農事試驗場

同 上 收 量 (匁)	同 上 收 量 (升)	同 上 收 量 (匁)	同 上 收 量 (升)	同 上 收 量 (匁)	同 上 收 量 (升)	同 上 收 量 (匁)	同 上 收 量 (升)	同 上 收 量 (匁)	同 上 收 量 (升)
六、五	一三九	一四	一〇三	二七	二四、五	八〇〇	二二九、五	二七	二七
一三九	五七四	一〇三	五四六	六八	一六〇、五	八〇〇	二二九、五	六八	六八
五七四	一六〇、五	五四六	二四、五	八〇〇	四八、一五〇	二二九、五	二二九、五	八〇〇	二二九、五
一六〇、五	四八、一五〇	二四、五	二四、五	八〇〇	一六五、一六	二二九、五	二二九、五	八〇〇	二二九、五
四八、一五〇	一六五、一六	二四、五	二四、五	八〇〇	四九、五四八	二二九、五	二二九、五	八〇〇	二二九、五
三四〇	三四〇	三六〇	三六〇	三七〇	三三五	三六〇	三七〇	三七〇	三七〇
三三五	三三五	三六〇	三六〇	三七〇	三五一、六	三六〇	三七〇	三七〇	三七〇
二、八六二	二、八六二	六〇〇	六〇〇	〇	九、一四	六〇〇	六〇〇	〇	〇
九、一四	九、一四	一〇、三	一〇、三	一一、五	四七〇	一〇、三	一〇、三	一一、五	一一、五
二、三五	二、三五	三三七	三三七	四一	二、三五	三三七	三三七	四一	四一
二、三五	二、三五	三三七	三三七	四一	二、三五	三三七	三三七	四一	四一

農事試驗場二ヶ所平均

一坪被害莖數(本)	同上收量(匁)	一坪小穗莖數	同上收量(匁)	一坪障害穗莖數	同上收量	一坪總莖數(本)	同上收量(匁)	反當收量	一坪標準收量	反當標準收量	被害莖玄米一升重量	健全莖玄米一升重量	總計玄米一升重量	被害率	備考
一六六	一七二	七〇	五六	七五	一〇八	七八一	二五二	七五、六〇〇	三五〇	三五〇	三三七	三八二	三七六	八、八〇	二、一一
五四	三三二	七〇	五六	七五	一〇八	七八一	二五二	七五、六〇〇	三五〇	三五〇	三三七	三八二	三七六	八、八〇	二、一一
五四	三三二	七〇	五六	七五	一〇八	七八一	二五二	七五、六〇〇	三五〇	三五〇	三三七	三八二	三七六	八、八〇	二、一一
五四	三三二	七〇	五六	七五	一〇八	七八一	二五二	七五、六〇〇	三五〇	三五〇	三三七	三八二	三七六	八、八〇	二、一一
五四	三三二	七〇	五六	七五	一〇八	七八一	二五二	七五、六〇〇	三五〇	三五〇	三三七	三八二	三七六	八、八〇	二、一一
五四	三三二	七〇	五六	七五	一〇八	七八一	二五二	七五、六〇〇	三五〇	三五〇	三三七	三八二	三七六	八、八〇	二、一一
五四	三三二	七〇	五六	七五	一〇八	七八一	二五二	七五、六〇〇	三五〇	三五〇	三三七	三八二	三七六	八、八〇	二、一一
五四	三三二	七〇	五六	七五	一〇八	七八一	二五二	七五、六〇〇	三五〇	三五〇	三三七	三八二	三七六	八、八〇	二、一一
五四	三三二	七〇	五六	七五	一〇八	七八一	二五二	七五、六〇〇	三五〇	三五〇	三三七	三八二	三七六	八、八〇	二、一一
五四	三三二	七〇	五六	七五	一〇八	七八一	二五二	七五、六〇〇	三五〇	三五〇	三三七	三八二	三七六	八、八〇	二、一一
五、八三一	一三、五六	五、八三一	一三、五六	五、八三一	一三、五六	五、八三一	一三、五六	五、八三一	一三、五六	一、八九	一、八九	一、八九	一、八九	一、八九	一、八九

四郡及農試平均	備考	被害率 (%)	八、〇八	六、一四	五、三四
早中晚稻平均	被害率	六、五二%			

二化性螟虫第二化期被害率調査
昭和四年度縣内平均被害率 六、五二%

早	中	晚	早、中、晚平均
印旛郡内三ヶ所平均被害率	七、四四%	八、四五%	一〇、七二%
香取郡内 同 上	九、四三	七、四六	九、三八
長生郡内 同 上	一三、七九	〇、一七	二、五八
君津郡内 同 上	三、九三	一、〇六	二、一三
農事試験場内二ヶ所平均被害率	五、八三一	一三、五六	一、八九
十四ヶ所平均被害率	八、〇八	六、一四	五、三四

備考 從來ノ調査ニハ首稻熱病、節稻熱病、菌核病、稿葉枯病等ノ被害穂莖ヲ螟虫ノ被害ト混同セルノ觀アリシモ本年 度ヨリ其等ノ障害穂ヲ區別シ調製ノ上玄米重量ニ依リ被害率ヲ算出ス

二、稻熱病ト施肥量及三要素ノ配合割合トノ關係試驗

本試驗ハ稻熱病ノ發生ガ施肥量及三要素ノ配合割合ト如何ナル關係アルヤヲ知ラントス

當場種藝部ニ於ケル水稻普通肥料ノ三要素ノ配合割合ヲ各成分共二倍或ハ四倍トナシ又ハ二成分ヲ二倍或ハ四倍トナシ 尙窒素ノミヲ半減セル區ヲ設ケ一區五坪宛二區制トナシ品種ハ罹病性ノ神力種ヲ用ヒ試驗地ハ年々發病シ易キ場所ヲ撰 定シ肥料ノ種類ハ窒素ハ硫酸アンモニア磷酸ハ過磷酸行灰、加里ハ硫酸加里ヲ使用ス

試驗區別	出穂始期	穂揃期	葉稻熱病發病歩合%	頸稻熱病發病歩合%	反當玄米收量
一、普肥N二倍量區	八、二二	八、二六	二六、九八	二、三七	一九八六
二、同 P 同	八、二二	八、二六	一、六六	一、九三	二、八二六
三、普肥K二倍量區	八、二二	八、二六	二二、九六	一、三二	二、七八三
四、普肥P、K、二倍量區	八、二二	八、二六	一五、五一	〇、九一	一、六一四
五、普肥P、K、四倍量區	八、二二	八、二六	一六、三二	三、二五	二、二二一
六、窒素二倍P四倍量區	八、二三	八、二九	一五、七九	五、二六	二、二六二
七、N二倍K四倍量區	八、二三	八、二九	二六、二二	七、〇一	二、〇八八
八、N二倍P、K二倍量區	八、二三	八、二九	二〇、八九	六、一六	二、〇三〇
九、N二倍P、K四倍量區	八、二三	八、二九	二二、二八	三、四二	二、〇〇二
一〇、N 半量區	八、一九	八、二三	五、五五	四、二九	二、〇七三
一一、N半量P二倍量區	八、一九	八、二四	六、一二	二、五四	二、二九四
一二、N半量K二倍量區	八、一九	八、二四	一二、七六	二、〇七	二、五四六
一三、N半量P、K、二倍量區	八、二〇	八、二四	二二、三八	一、〇九	二、七六九

一四、N半量P、K、四倍量區	八、二〇	八、二三	二、八五	一、〇四	二、七七〇
一五、普通肥 料 區	八、二〇	八、二三	六、五五	五、八三	二、一八四
一六、普通肥料半量區	八、二〇	八、二四	二、六三	二、七七	二、三〇七

試 驗 區 別	反當藥收量	玄米一升重量	完全米粒中ノ 粃千粒中ノ	完全米粒中ノ不 粃千粒中ノ	死米粒中ノ 粃千粒中ノ	品 質
一、普肥 N 二倍量 區	二五八、〇〇〇	三六四	四九八	二四七	二五五	下
二、同 P 同	二六一、〇〇〇	三六六	五四七	三一四	一三九	上
三、普肥 K 二倍量 區	二〇四、〇〇〇	三七四	六六六	二二八	一〇六	中
四、普肥 P、K 二倍量 區	一九七、〇〇〇	三六六	五三三	二八八	一七九	下
五、普肥 P、K 四倍量 區	二三一、〇〇〇	三七四	四〇四	三〇二	二九四	上
六、窒素二倍P四倍量 區	二七九、〇〇〇	三六二	三五六	四九七	一四七	上
七、N二倍K四倍量 區	二九四、〇〇〇	三七二	三七八	三九〇	二二二	中
八、N二倍P、K二倍量 區	二八五、〇〇〇	三五六	三四九	三三八	三三三	下
九、N二倍P、K四倍量 區	二五八、〇〇〇	三五八	四八〇	一八八	三三二	下
一〇、N 半 量 區	二〇七、〇〇〇	三六六	四四六	三九四	一六〇	中
一一、N半量P二倍量 區	一九八、〇〇〇	三七四	五三五	三六〇	一〇五	上
一二、N半量K二倍量 區	二三五、〇〇〇	三六〇	四八九	二九九	二二二	中

一三、N半量 P、K二倍量 區	一五六、〇〇〇	三六四	五九七	二九八	一〇五	上
一四、N半量 P、K四倍量 區	一六五、〇〇〇	三六六	四二〇	三七六	二〇四	中
一五、普通 肥 料 區	二二五、〇〇〇	三六四	三二九	三二四	三四七	下
一六、普通肥料半量 區	一四四、〇〇〇	三六八	四七一	三七一	一五八	中

右試験ノ成績ニ依レバ普通肥料ニテ磷酸ヲ二倍シタル第二區發病最モ少ナク普通肥料ノ窒素ヲ二倍シタルモノ第一區發病最モ多シ次テ窒素ノ分量ヲ半量トシ磷酸、加里ヲ二倍量トナセルモノ發病少ナカリシ之レヲ要スルニ窒素磷酸、加里ヲ普通肥料ノ二倍以上トスル時ハ發病モ又多ク尙磷酸加里ノ分量ノミヲ増施スル事ニヨリ必ズシモ發病ヲ輕減シ得ザルモノナルヲ知ル

備考 本試験ハ葉稻熱病ト頸稻熱病トニ付調査セルモ品種ヲ葉稻熱病ニ罹病性ノ晚生神力種ヲ使用シタルヲ以テ葉稻熱病ノ被害歩合ニ重キヲ置キ結論ス

化學部

第一 一般試驗

甲 夏作之部

一、肥料三要素試驗

當場圃場ニ於ケル肥料三要素天然供給量ノ多少ヲ水田ハ水稻ニツキ畑ハ陸稻ニツキ調査シ施肥ノ標準ヲ檢知センガ爲メ
ニ左記ノ設計ニ基キ試驗ヲ施行セリ

(一) 試驗設計

- (イ) 試驗區名
- 一、無肥料區
- 二、無窒素區
- 三、無磷酸區
- 四、無加里區
- 五、完全區

六、完全石灰加用區

(ロ) 一區面積

水田 十二坪 (收量調査面積九坪)

畑 四坪二合 (收量調査面積三坪)

(ハ) 供試作物品種

水稻 中生愛國種

陸稻 田優種

(ニ) 肥料設計

反當施用三要素量	肥料名	施用法
窒素全量 三、〇〇〇 ^貫	硫酸アンモニヤ	半量追肥
磷酸全量 三、〇〇〇	過磷酸石灰	同右
加里全量 三、〇〇〇	硫酸加里	同右
石灰全量 石灰加用二〇貫〇〇〇 其他各區肥料酸性中ノ加量	炭酸石灰	全量元肥

(一) 試驗成績
(イ) 水田

試驗區名	調查項目		昭和四年度	八ヶ年平均	完全區ニ對スル百分比	率
	生育調査 (八月廿日)	反當玄米收量				
無肥料區	草丈 一、六〇	莖數 八、二	石 一、四九二	石 一、九三八		六九
無窒素區	草丈 二、七〇	莖數 七、四	石 一、五八六	石 一、九四八		六九
無磷酸區	草丈 二、五三	莖數 九、三	石 二、〇五一	石 二、二九一		八一
無加里區	草丈 三、二六	莖數 一〇、三	石 二、二九七	石 二、七七九		九九
完全區	草丈 三、二五	莖數 二〇、七	石 二、四七四	石 二、八一八		一〇〇
完全石灰區	草丈 三、〇二	莖數 九、八	石 二、二六〇	石 二、七四八		九八

右ノ成績ニ依レバ完全區收量最多ク無加里區完全石灰區之ニ次ギ無磷酸區無窒素區無肥料區收量著シク劣ル
依ツテ當場水田ニ於ケル水稻作ニ對シテハ加里ノ天然供給量ハ豊富ナルモ磷酸窒素ハ缺乏セルヲ示ス
(ロ) 畑

調查項目 生育調査 (八月廿日) 反當玄米收量

試驗區名 草丈 莖數 昭和四年度 三ヶ年平均 完全區收量ニ對スル百分比

無肥料區 一、九〇 八、五 一、八七四 一〇〇

試驗區名	調查項目		昭和四年度	三ヶ年平均	完全區收量ニ對スル百分比	率
	生育調査 (八月廿日)	反當玄米收量				
無窒素區	草丈 二、九六	莖數 一八、五	〇、八一九			四四
無磷酸區	草丈 三、二四	莖數 一一、八	一、三七〇			七三
無加里區	草丈 二、四五	莖數 一八、八	一、六四五			八八
完全區	草丈 三、一五	莖數 二〇、五	〇、六五七			三五
完全石灰加用區	草丈 三、〇二	莖數 一三、〇	一、七八七			九五

右ノ成績ニ依レバ完全區最モ多ク完全石灰區、無加里區、無磷酸區ハ順次之ニ次ギ無窒素區、無肥料區收量甚シク劣レリ
二、肥料三要素適量試驗
當場圃場土壤ニ對スル肥料三要素ノ適量ナル配合量ヲ水田ハ水稻ニツキ畑ハ陸稻ニツキ調査シ施肥ノ標準量ヲ檢知セン
爲メニ左記ノ設計ニ基キ試驗ヲ施行セリ

(一) 試驗設計

(イ) 一區面積 水田 一坪 (木框) 畑 三坪五合 (收量調査面積三坪)

(ロ) 供試作物品種

調查項目 生育調査 (八月廿日) 反當玄米收量

試驗區名 草丈 莖數 昭和四年度 三ヶ年平均 完全區收量ニ對スル百分比

無窒素區 二、九六 一八、五 〇、八一九 四四

無磷酸區 三、二四 一一、八 一、三七〇 七三

無加里區 二、四五 一八、八 一、六四五 八八

完全區 三、一五 二〇、五 〇、六五七 三五

完全石灰加用區 三、〇二 一三、〇 一、七八七 九五

試驗區	反當施用三要素量			生育調査(八月二十日)		反當玄米收量		收量順位
	窒素	磷酸	加里	草丈	莖數	昭和四年度	平均三年	
1、一、一、一、區	一貫	一貫	一貫	二、八一	八、三	二、〇三一	二、三六一	一八
2、二、一、一、區	二	一	一	二、九七	九、三	一、八三一	二、七六一	一六
3、三、一、一、區	三	一	一	三、〇七	一、一	二、三九五	二、八六〇	一五
4、四、一、一、區	四	一	一	三、二三	一三、三	二、九六九	三、四八五	四
5、一、二、一、一、區	一	二	一	三、〇〇	七、九	二、六五〇	二、九九二	一〇

(ハ) 水稲 中生愛國種
陸稻 田優種
供用肥料
窒素質肥料 硫酸アンモニア
磷酸質肥料 過磷酸石灰
加里質肥料 硫酸加里

(ニ) 尚各區共肥料ノ酸性中和量ノ炭酸石灰ヲ加用セリ
試驗區名反當三要素施用量並ニ試驗成績
水田

6、二、二、一、區	二	二	一	三、〇四	一〇、一	二、六四四	三、一五	九
7、三、二、一、區	三	二	一	三、一一	九九	二、九五四	三、二一八	八
8、四、二、一、區	四	二	一	三、二三	一〇、四	三、三五九	三、四四二	五
9、一、三、二、區	一	三	二	三、一〇	八、〇	二、五四四	二、五九二	一七
10、二、三、二、區	二	三	二	三、一一	九、六	二、五〇五	二、九七四	一一
11、三、三、二、區	三	三	二	三、一六	一一、四	二、四五二	二、九〇五	一三
12、四、三、二、區	四	三	二	三、〇七	九、三	二、五八八	三、三八二	七
13、五、三、二、區	五	三	二	三、二四	一〇、三	二、七七八	三、六七〇	一
14、一、四、三、區	一	四	三	二、八七	九、八	二、八三五	二、八九八	一四
15、二、四、三、區	二	四	三	三、一七	一〇、〇	二、六二三	二、九三一	一二
16、三、四、三、區	三	四	三	三、〇七	一〇、一	三、五五〇	三、四一七	六

右成績ニ依レバ當場圃場ニ於ケル水稻作ニ對シテハ窒素増施スルニ從ヒ收量ヲ増加シ、五、三、二區第一位、五、四、二區之ニ次ギ一、一、一區最下位ニ在リ

供試品種 田優種

試 驗 區	反當施用三要素量			生育調査(八月廿日)		反當玄米收量	收量順位
	窒素	磷酸	加里	草丈	莖數		
1、一、一、一、一、區	一貫	一貫	一貫	二、〇四尺	九、〇本	一、二一六石	一七
2、二、一、一、一、區	二	一	一	一、九九	八、八	一、五五五	一一
3、三、一、一、一、區	三	一	一	二、一四	一〇、五	二、六八五	九
4、四、一、一、一、區	四	一	一	一、九一	八、三	一、九二九	四
5、一、二、一、一、區	一	二	一	一、五三	六、五	一、二八一	一六
6、二、二、一、一、區	二	二	一	一、八四	八、〇	一、二二二	一五
17、四、四、三、區	四	四	三	三、二八	一一、三	三、五二九	三
18、五、四、三、區	五	四	三	三、四五	一一、八	三、六〇九	二

7、三、二、一、區	三	二	一	二、一五	八、〇	一、八〇八	一五四一	一二
8、四、二、一、區	四	二	一	二、〇四	八、五	一、四三一	一、八〇八	六
9、一、三、二、區	一	三	二	二、〇四	一〇、三	一、六五六	一、四三一	一三
10、二、三、二、區	二	三	二	二〇、二	一一、八	一、七四一	一、六五六	一〇
11、三、三、二、區	三	三	二	二、一一	一四、五	一、七九一	一、七四一	八
12、四、三、二、區	四	三	二	二、一六	一八、八	一、七九一	一、七九一	七
13、五、三、二、區	五	三	二	二、二二	一五、八	一、八七七	一、八七七	五
14、一、四、三、區	一	四	三	二、〇八	一八、三	一、一〇二	一、一〇二	一八
15、二、四、三、區	二	四	三	二、〇五	二三、〇	一、三六六	一、三六六	一四
16、三、四、三、區	三	四	三	二、一〇	二三、三	二、一〇三	二、一〇三	一
17、四、四、三、區	四	四	三	二、一三	一一、〇	二、〇二四	二、〇二四	三

本年度ハ旱害及雀害ノタメ成績除外セリ

18、五、四、三、區 五 四 三 二、〇九 一〇、三 二、〇三七 二

右成績ニ依レバ當場圃場ニ於ケル陸稻作ニ於テハ窒素用量増加スルニ從ヒ收量モ増シ磷酸モ同様ノ傾向ヲ示ス
尙ホ重ネテ試驗ヲ行ヒ正確ヲ期セントス

三、硫酸アンモニア施用時期試驗

水稻作ニ對スル「硫酸アンモニア」ノ適當ナル施用時期ヲ檢知シ當業者指導ノ參考ニ資セントメ左記設計ニ基キ試驗ヲ施行セリ

(一) 試驗設計

- (イ) 一區面積 三坪三合(收量調査面積二坪五合)
- (ロ) 供試作物品種 水稻中生愛國種
- (ハ) 肥料(反當)

肥料名	反當施用量	施用元肥	反當三要素量
堆肥	二九〇貫	全量	
大豆粕	一四貫	同	窒素 三、三六〇
過磷酸石灰	一三貫	同	磷酸 三、五四〇

硫酸加里 一、九七〇

硫酸アンモニア 全量ヲ各區ニヨリ施用時期ヲ異ニス

(ニ) 試驗區名 試驗成績

試驗區名	調查項目		草	丈	稈長	莖	數	出穂數
	七月二十日	八月二十日						
一、元肥區	二、一尺	三、二五尺	三、二二尺	一一、四本	九、〇本	八、五		
二、七月上旬追肥	二、〇九	三、一六	三、一一	一一、〇	九、〇	八、〇		
三、七月中旬追肥	一、九七	三、二二	二、九六	一〇、〇	九、〇	七、〇		
四、七月下旬追肥	一、九二	三、三三	三、一二	一三、〇	八、〇	七、〇		
五、八月上旬追肥	一、八五	三、一五	二、八八	一一、〇	八、〇	七、〇		
六、八月中旬追肥	一、九九	三、一七	二、九七	一三、〇	九、〇	八、〇		
七、八月下旬追肥	一、九五	三、二四	三、〇三	一〇、〇	八、七	九、〇		

(ロ) 收量調査反當

調査項目	全重量		玄米重量		玄米容量		玄米一升重量		元肥區ニ對シ空素重百分比
	昭和四年度	四ヶ年平均	昭和四年度	四ヶ年平均	昭和四年度	四ヶ年平均	昭和四年度	四ヶ年平均	
試驗區名									
一、元肥區	三七〇〇貫	二六、一一〇貫	八〇、七六〇貫	六、三五五貫	三、二三三石	二、四六七石	二七九	三六九、五	一〇〇
二、七月上旬追肥	二二六、四〇〇	一七三、九七〇	九三、三〇〇	一〇、四七五	三、三六〇	二、六七八	三六七	三九、五	一〇六
三、七月中旬追肥	二五三、三〇〇	一八四、七五五	九二、四〇〇	九、六二五	二、四〇〇	二、四七一	三六一	三八、三	一〇〇
四、七月下旬追肥	二二一、三〇〇	一六六、七〇〇	七二、一六〇	九、二八五	一、八九九	二、三九七	三六七	三八、八	九七
五、八月上旬追肥	一九〇、八〇〇	一五五、九四五	七三、六六〇	九、一八五	一、八九〇	二、三三三	三六六	三八、五	九五
六、八月中旬追肥	一四〇、〇〇〇	一七三、九七〇	八八、三〇〇	九、四三〇	二、二五三	二、二五五	三九三	三九、三	一〇三
七、八月下旬追肥	二四〇、〇〇〇	二七四、八三〇	九二、一三〇	九、七五〇	二、四〇六	二、五九九	三七七	三九、〇	一〇三

右成績ニ依レバ硫酸アンモニアノ追肥ハ七月上旬ヲ以テ最適トシ有効分藥及玄米收量共ニ最モ多ク七月中旬以後ノ追肥ハ有効分藥及玄米收量ヲ漸減ス但シ八月中下旬ノ追肥ハ玄米收量ヲ稍々増加ス

四、空素及磷酸ト水稻分藥トノ關係試驗

空素質肥料及磷酸質肥料ノ施肥法ノ如何ニヨリ水稻ノ分藥ニ如何ナル影響ヲ及ボスカヲ檢知センガタメ左記設計ニ基キ

「ポット」試驗ヲ施行セリ

(一) 試驗設計

- (イ) 供試土壤 當場畑心土ヲ用ヒ水田状態トセリ
- (ロ) 供試作物品種 水稻中生愛國種
- (ハ) 施肥量 (ポット當)
 - 硫酸アンモニア 六 瓦
 - 磷酸曹達 六 瓦
 - 硫酸加里 二 瓦
- (ニ) 施肥法 追肥ハ夫々硫酸アンモニア磷酸曹達ノ全量ヲ追肥トシ其ノ他ハ元肥トス

(イ) 生育調査 (分藥數)

試驗區	元肥	日一十	日六十	日一廿	日六廿	日八月	日六	日一十	日六十	日一廿	日六廿	日廿一	日廿一	出穂數	日十	日五十
一、全量	一七、三	三三、三	三三、三	三七、三	三六、三	三三、三	三三、七	三三、三	三三、三	三三、〇	三九、〇	二九、〇	二八、七	二六、〇	一四、三	三三、〇
二、七月十日 空素磷酸追肥區	七、三	九、三	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	二、七、七	二、六、三	二、六、三	二、六、〇	二、五、〇	二、三、七	二、四、三	二、二、七	三三、三	
三、七月十日 空素追肥區	九、七	一一、七	三、三	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	二、九、七	三、三、三	二、八、七	三、〇、〇	二、七、七	二、七、〇	三九、三	
四、七月十日 磷酸追肥區	三、三	一一、〇	一一、〇	一一、〇	一一、〇	一一、〇	一一、〇	一一、〇	一一、〇	一一、〇	一一、〇	一一、〇	一一、〇	一一、〇	一一、〇	一一、〇

四一〇

試験區名	全重量	昭和四年度	三ヶ年平均	種實重量	昭和四年度	三ヶ年平均	元肥區ニ對スル種實重量百分比
五、七月廿日 窒素燐酸追肥區	七、三	七、七	八、三	一三、三	二七、七	二六、〇	二七、七
六、七月廿日 窒素追肥區	八、七	一〇、〇	八、〇	一三、〇	二八、〇	二六、三	二七、三
七、七月廿日 燐酸追肥區	一三、三	一〇、三	一三、三	一三、〇	三〇、七	三〇、〇	二九、三
八、八月一日 窒素燐酸追肥區	九、〇	九、〇	八、三	八、七	三〇、〇	二八、〇	三三、七
九、八月一日 窒素追肥區	一〇、〇	九、七	九、〇	八、三	一三、三	一八、〇	三三、三
一〇、八月一日 燐酸追肥區	一〇、七	一〇、七	一〇、〇	一〇、七	一三、七	一六、七	三三、〇
一一、八月十日 窒素燐酸追肥區	八、〇	七、五	八、五	七、五	八、〇	八、〇	一六、〇
一二、八月十日 窒素追肥區	六、七	六、七	六、七	六、七	六、三	六、〇	一五、七
一三、八月十日 燐酸追肥區	九、〇	九、七	九、〇	九、三	一〇、〇	一四、七	一七、七
一四、八月廿日 窒素燐酸追肥區	七、三	八、〇	八、〇	七、七	七、三	六、三	七、七
一五、八月廿日 窒素追肥區	九、三	九、三	一三、三	七、三	一四、五	八、三	八、七

(ロ) 收量調査 (ポット當)

四一一

試験區名	調査項目		種實重量	元肥區ニ對スル種實重量百分比
	全重量	昭和四年度		
一六、八月廿日 燐酸追肥區	一一、七	一一、三	一〇、三	一〇、七
一、全量元肥區	三一、九	三一、九	一一、九	一〇〇
二、七月十日 窒素燐酸追肥區	三〇、五	二七、五	一三、七	九六
三、七月十日 窒素追肥區	三五、九	二九、四	一五、二	一〇一
四、七月十日 燐酸追肥區	三五、一	三〇、六	一五、一	一〇三
五、七月廿日 窒素燐酸追肥區	三一、二	二五、二	一四、九	九二
六、七月廿日 窒素追肥區	二六、三	二一、五	一一、四	七四
七、七月廿日 燐酸追肥區	二七、八	二四、七	一一、二	七九
八、八月一日 窒素燐酸追肥區	二二、七	一七、三	一〇、一	六〇

九、八月一日 窒素追肥區	一六、一	一三、九	六、七	六、三	四六
十、八月一日 磷酸追肥區	二六、一	一八、六	一一、八	八、七	六四
十一、八月十日 窒素磷酸追肥區	一一、五	九、リ	三、三	三、四	二五
十二、八月十日 窒素追肥區	一一、九	九、三	三、三	三、二	二四
十三、八月十日 磷酸追肥區	二二、〇	一七、三	九、〇	七、六	五六
十四、八月廿日 窒素磷酸追肥區	一〇、四	八、二	三、六	二、七	二〇
十五、八月廿日 窒素追肥區	一〇、一	八、四	二、七	二、四	一八
十六、八月廿日 磷酸追肥區	二四、五	一四、四	九、三	七、一	五二

以上ノ成績ニ依レバ

全量元肥區ノ有効分蘗閉止期ハ七月二十五日前後分蘗數ノ最頂點ハ八月一日前後ニシテ七月十日追肥區モ亦同様ナリ
 生育初期ノ分蘗ニ對シテハ特ニ窒素ヲ必要トスルモ磷酸ヲ缺クトキハ有効分蘗少ナク從ツテ收量ニ於テモ亦劣ル
 窒素磷酸ノ追肥ノ適期ハ七月十日ニシテ收量最モ多ク七月十日以後ノ施用場合ハ收量漸減ス

五、水稻品種ト施肥量關係試驗

縣下ニ栽培セラル代表的水稻品種即チ中生愛國種及中生神力種ニ對スル適當ナル肥料ノ施用量ヲ檢知シ水稻作肥料指導ノ參考ニ資センタメ左記設計ニ基キ試驗ヲ施行セリ

(一) 試驗設計

愛國種及神力種ニ就キ左記六區ノ試驗區ヲ設ケタリ

(イ) 試驗區名

- 一、標準區
- 二、三要素二割五分増施區
- 三、窒素五割磷酸加里二割五分増施區
- 四、磷酸五割窒素加里二割五分増施區
- 五、加里五割窒素磷酸二割五分増施區
- 六、磷酸加里五割窒素二割五分増施區

(ロ) 區面積 一坪五合(收量調査面積一坪)

(ハ) 供試作物 水稻中生愛國種

同 中生神力種

(ニ) 反當肥料施用量

肥料名	反當三要素量			硫酸加里	過磷酸石灰	硫酸アンモニア	大豆粕	堆肥	第一區	第二區	第三區	第四區	第五區	第六區
	加里	磷酸	窒素											
第一區	二、五〇〇	二、五〇〇	三、〇〇〇	二、〇二一	七、七〇〇	三、二〇〇	一四、〇〇〇	一五〇貫	第一區	第二區	第三區	第四區	第五區	第六區
第二區	三、二二五	三、二二五	三、七五〇	二、六五六	九、八四〇	四、三六〇	一七、五〇〇	三〇〇貫	第二區	第三區	第四區	第五區	第六區	
第三區	三、二二五	三、二二五	四、五〇〇	一、九九〇	八、八三〇	五、五二五	二一、〇〇〇	三五〇貫	第三區	第四區	第五區	第六區		
第四區	三、二二五	三、七五〇	三、七五〇	二、六五六	一二、九六五	四、三六〇	一七、五〇〇	三〇〇貫	第四區	第五區	第六區			
第五區	三、二二五	三、二二五	三、七五〇	三、九五八	九、八四〇	四、三六〇	一七、五〇〇	三〇〇貫	第五區	第六區				
第六區	三、二二五	三、二二五	三、七五〇	三、九五八	一二、九六五	四、三六〇	一七、五〇〇	三〇〇貫	第六區					

(ホ) 肥料施用方法
 堆肥、大豆粕ハ各區共全量ヲ元肥トシ其他ハ半量ヲ元肥半量ヲ七月中旬追肥トス
 (ニ) 試験成績
 (イ) 愛國種

調査項目	(ロ) 中生神力種						調査項目	(ロ) 中生神力種						
	第一區	第二區	第三區	第四區	第五區	第六區		第一區	第二區	第三區	第四區	第五區	第六區	
生育調査(八月廿日)	三、三二二	三、三三三	三、三三九	三、三三六	三、四一	三、二八	草丈	三、三二二	三、三三三	三、三三九	三、三三六	三、四一	三、二八	草丈
昭和四年度	一一、〇	一一、八	一一、四	一一、四	一一、四	一一、〇	莖數	一一、〇	一一、八	一一、四	一一、四	一一、四	一一、〇	莖數
昭和四年度	一一、〇四九	一一、三六三	一一、七四二	一一、三三四	一一、四九五	一一、五三七	反當	一一、〇四九	一一、三六三	一一、七四二	一一、三三四	一一、四九五	一一、五三七	反當
三ヶ年平均	一一、五〇〇	一一、六五四	一一、五五六	一一、六三三	一一、七〇八	一一、七七二	收量	一一、五〇〇	一一、六五四	一一、五五六	一一、六三三	一一、七〇八	一一、七七二	收量
標準第一區ニ對スル	一一、〇〇	一一、〇六	一一、〇二	一一、〇五	一一、〇八	一一、一一	收量	一一、〇〇	一一、〇六	一一、〇二	一一、〇五	一一、〇八	一一、一一	收量
玄米收量百分比	一一、〇〇	一一、〇六	一一、〇二	一一、〇五	一一、〇八	一一、一一	標準第一區ニ對スル	一一、〇〇	一一、〇六	一一、〇二	一一、〇五	一一、〇八	一一、一一	標準第一區ニ對スル

第三區	二、六三	一四、二	一、五〇〇	二、二七八	一一七
第四區	二、六三	一三、〇	一、三八二	二、一〇〇	一一二
第五區	二、四八	一三、四	一、五八六	二、二二〇	一一〇
第六區	二、四五	一二、四	一、六一一	二、二二三	一一四

右試驗成績ニ依レバ愛國種神力種ヲ通ジ各要素ヲ増施スル場合窒素ヲ或程度迄増加セバ磷酸加里ハ其程度以上ニ増加スル事ヲ要ス

六、新肥料肥効比較試驗 (原地試驗之部)

目的 最近市販ノ新肥料、ニトロホスカ、アンモホス及ピレナニヤ等ノ肥効ヲ在來肥料ノ肥効ト比較セントス
方法

(一) 水田之部

左肥四區ノ試驗區ヲ設ケ一區面積ヲ七坪トシ一區制ニテ水稻ニ付原地試驗ヲ行ヘリ

(イ) 試驗區名

- 一、標準區
- 二、石灰窒素區
- 三、ニトロホスカ區
- 四、レナニヤ區

(ロ) 反當施肥量

區名	堆肥	大豆粕	石灰窒素	レナニヤ	ニトロホスカ	硫酸安過石	硫加
標準區	二五〇貫	二〇貫	一	一	一	三、〇	一五、〇
石灰窒素區	二五〇	一	一一、〇	一	一	一	一六、五五
ニトロホスカ區	二五〇	一	一	一	一二、二五八	一	五、五〇
レナニヤ區	二五〇	二〇貫	一	一〇貫	一	三、〇	一

施肥三要素量 窒素全量三、一五〇貫
磷酸全量三、七五〇
加里全量三、五七〇

(ハ) 肥料施用方法

堆肥、過磷酸、硫酸加里、レナニヤ及大豆粕ハ元肥石灰窒素ハ挿秧前十日施用シ
硫酸、ニトロホスカハ三分ノ二元肥三分一追肥トス

(ニ) 供試作物品種名

水稻 中生愛國種

(ホ) 試驗成績

調査項目	生育調査(八月廿日)		反當玄米收量	
	草丈	草數	昭和四年度	百分比
標準區	三、三七尺	一〇、五本	二、五七四石	一〇〇
石灰窒素區	三、二〇	一一、七	二、六九〇	一〇五
ニトロホスカ區	三、一〇	九、一	二、三二八	九〇
レナニヤ區	三、三五	一一、八	二、八〇二	一〇九

(二) 畑作之部

左記四區ノ試験區ヲ設ケ一區面積ヲ二、七八坪トシ一區制ニテ陸稻ニツキ原地試験ヲ行ヘリ

(イ) 試験區名

- 一、硫酸アンモニア區
- 二、ニトロホスカ區
- 三、アムモホス區
- 四、石灰窒素區
- (ロ) 反當施肥量

區名	肥料名	堆肥	硫酸安	過磷酸	硫酸加里	石灰窒素	ニトロホスカ	カアンモホス
硫酸安區		二五〇貫	五貫	一〇	二、五	五、五五六		
ニトロホスカ區		二五〇		五			六、四五二	
アムモホス區		二五〇		五	二、五			六、二五〇
石灰窒素區		二五〇		一〇	二、五			

肥料三要素量 窒素全量 二貫四五〇
 磷酸全量 二貫七五〇
 加里全量 二貫四五〇

(ハ) 肥料施用方法
 堆肥、過磷酸、硫酸加里ハ元肥、石灰窒素ハ播種前二週間施肥、硫酸「ニトロホスカ」「アムモホス」ハ三分一、元肥三分一追肥トス

(ニ) 供試作物品種名
 陸稻 田優種

(ホ) 試験成績

調査項目	生育調査 (八月廿日)			昭和四年度 二ヶ年平均	反當玄米收量	硫酸區ニ對スル 收量百分比
	草丈	尺間莖數	本數			
試驗區名	草	尺	本	石		
一、硫酸區	一、九六	一一、五	早害多成	一一、〇二六	一〇〇	
二、ニトロホス區	二、〇八	一六、五	續除外ス	二、〇八九	一〇三	
三、アムモホス區	二、〇九	二〇、〇		二、二二七	一一〇	
四、石灰窒素區	二、三九	一、六五		一、六三六	八一	

以上ノ成績ニ依レバ「ニトロホスカ」ハ畑作ニハ良好ナルモ水田ニハ劣リ「レナニヤ」及「アムモホス」ハ相當良好ノ成績ヲ示セリ

尙ホ正確ヲ期スルタメ重テ試驗ヲ行フベシ
七、新肥料肥効比較試驗(ポット試驗之部)

目的 最近市販ノ新肥料、ロイナホス、ニトロホスカ、レナニヤホス、スコリヤホス等ノ肥効ヲ硫酸及過磷酸ノ肥効ト比較セントス

方法 左記ノ設計ニヨリ水稻ニ就キ試驗ヲ施行セリ

(一) 各試驗區共通設計

- 一、ワグネル氏ポットヲ使用シ各三區制一株二本三株トス
- 一、供試土壤 當場畑心土
- 一、供試水稻品種 中生愛國種

一、肥料施用法 全量元肥

(二) 施肥量(ポット)當

(イ) 窒素質肥効試驗

試驗區名	調査項目	ポット			ポット		
		窒素質肥料	過磷酸	硫酸加里	窒素	磷酸	硫酸加里
無窒素區		—	一〇、二六	五、一〇	—	二、〇〇	二、四五
標準區		硫酸 二、四五	一〇、二六	五、一〇	〇、五	二、〇〇	二、四五
ロイナホス區		ロイナホス 二、二五	七、七〇	五、一〇	〇、五	二、〇〇	二、四五
ニトロホスカ區		ニトロホスカ 三、二三	七、七〇	三、八一	〇、五	二、二〇	〇、四五
大豆粕區		大豆粕 七、七	一〇、二六	五、一〇	〇、五	二、〇〇	二、四五
撒大豆粕區		撒粕 七、〇	一〇、二六	五、一〇	〇、五	二、〇〇	二、四五

(ロ) 磷酸質肥効試驗

試驗區名	調査項目	ポット			ポット		
		磷酸質肥料	硫酸	硫酸加里	窒素	磷酸	硫酸加里
無磷酸區		—	九、六〇	五、一〇	二、一〇	—	二、四五

調査項目		草丈(八月廿日)	莖數(同上)	種實收量	標準區ニ對スル比率
標準區	過燐酸	二、五六	九、六〇	五、一〇	二、一〇
ロイナホス區	ロイナホス	二、二五	七、五	五、一〇	二、一〇
ニトロホスカ區	ニトロホスカ	三、二三	七、五	三、八一	二、一〇
レナニヤホス區	レナニヤ	一、六七	一〇、〇	五、一〇	二、一〇
試驗區名	調查項目	草丈(八月廿日)	莖數(同上)	種實收量	標準區ニ對スル比率
無窒素區	無窒素區	八八、五 <small>種</small>	六、三 <small>本</small>	一一、五〇	二、一八
標準區	標準區	九九、二	二四、七	三九、五三	一〇〇
ロイナホス區	ロイナホス區	一〇二、一	二二、七	三九、七〇	一〇〇
ニトロホスカ區	ニトロホスカ區	一〇〇、六	二〇、七	三一、七九	八〇

(三) 試驗成績

(1) 窒素質肥効試驗

(ロ) 磷酸質肥効試驗

調査項目		草丈(八月廿日)	莖數(同上)	種實收量	標準區ニ對スル比率
大豆粕區	大豆粕區	二〇〇、〇	一九、〇	三二、三七	五七
撒大豆粕區	撒大豆粕區	九九、六	一五、〇	二二、七二	五五
試驗區名	調査項目	草丈(八月廿日)	莖數(同上)	種實收量	標準區ニ對スル比率
無燐酸區	無燐酸區	八五、三 <small>種</small>	一〇、〇 <small>本</small>	一八、六〇	三七
標準區	標準區	一〇九、七	二九、〇	五〇、三〇	一〇〇
ロイナホス區	ロイナホス區	九九、五	二七、七	五〇、五七	一〇一
ニドロホスカ區	ニドロホスカ區	一〇五、四	二七、三	五〇、五九	一〇一
レナニヤ區	レナニヤ區	一〇四、八	二五、五	四八、七二	九七

右ノ如キ成績ナルモ尙正確ヲ期スルタメ本試驗ヲ繼續スベシ
 八、甘藷ニ對スル肥料三要素試驗
 目的 當場圃場ニ於ケル肥料三要素ノ天然供給量ノ多少ヲ甘藷ニ就キ調査シ施肥ノ標準ヲ檢知セントス

方法 左記設計ヨリ一區面積七、二五坪ニ區制ニテ原地試驗ヲ行ヘリ

(一) 試驗區名

- (イ) 完全區
- (ロ) 無肥料區
- (ハ) 無窒素區
- (ニ) 無磷酸區
- (ホ) 無加里區
- (ヘ) 完全石灰加用區

(二) 反當施肥量

反當三要素量	肥料名	肥料施用方法
窒素全量 貫	硫酸アムモニア	全量元肥
磷酸全量	過磷酸石灰	"
加里全量	硫酸加里	"

石灰全量 一〇、〇〇〇

炭酸石灰 同

四、試驗成績(反當)

調査項目	完全區	無肥料區	無窒素區	無磷酸區	無加里區	完全石灰區
莖葉	八三、二六六 ^貫	四七、六九三	三四五、一〇五	五五三、一六七	三九三、七〇六	七四、四五五
塊根	四三、五六〇 ^貫	三七六、五三三	四一九、三七〇	三四四、六六六	八四、八三九	四一〇、〇七七
塊根内	五、四六六 ^上	八五、〇〇七	一五、六六八	一三三、五六八	一六、三三三	一三、九六六
譯	二三七、〇三二 ^中	一三六、八六七	三五、二二六	一四四、〇四	四六、五七三	三三、五六八
屑	五、〇六三 ^下	五四、六九	五、五六六	三七、〇四九	三、九四四	五、六四三
完全ニ對スル塊根百分比	二六、六五	三、一八九	一八、三三〇	一九、〇九二	一六、三三三	三五、五五二

右ノ成績ニ依レバ甘藷ニ於テハ窒素ハ少量ニテモ完全區ト同様ノ收穫ヲ舉ゲ磷酸ヲ缺ク場合ハ稍々收穫ヲ減ジ加里ヲ缺グ時ハ特ニ減收アリ

乙、冬作之部

一、肥料三要素試験

目的 當場圃場ニ於ケル肥料三要素天然供給量ノ多少ヲ麥ニ就キ調査シ施肥ノ標準ヲ檢知セントス
 方法 大麥及小麥ノ各々ニ就キ左記六區ノ試験區ヲ設ケ一區ノ面積ヲ大麥ハ四坪八合六勺小麥ハ八坪一合四勺トシ原地
 ニ就キ試験ヲ行ヘリ

1、試験區

1. 完全區
2. 無肥料區
3. 無窒素區
4. 無磷酸區
5. 無加里區
6. 完全石灰加用區

反當施肥成分量	肥料名	施用方法
窒素全量	磷酸アンモニア	同半量追肥
磷酸全量	過硫酸石灰	同
加里全量	硫酸加里	同

石灰全量 二〇、〇〇〇 炭酸石灰 全量元肥

備考 完全石灰加用區以外ノ各區ニハ肥料ノ酸性中和量ノ石灰ヲ加用セリ

(ハ) 供試作物品種

大麥 關取種

小麥 赤達摩種

ニ、試験成績

一、大麥

調査項目	生育調査(三月廿日)		反當種實收量	
	草丈	尺間穗數	昭和四年度	六ヶ年平均
試驗區名				
一、無肥料區	一、三〇	一、三本	〇、六五八石	一、六三八石
二、無窒素區	一、七九	一、二七、五	一、九三五	二、九七七
三、無磷酸區	一、四一	一、三、五	〇、六六四	二、二三七
四、無加里區	一、四三	三、七、八	一、九六七	三、九五七
五、完全區	一、四〇	七〇、八	四、五七九	五、〇〇六
六、完全石灰區	一、一七	六、一、五	四、七三〇	五、〇三一
				完全區ニ對スル百分比
				一〇一
				一〇〇
				七九
				四五
				五九
				三三

二、小 麥

調查項目	生育調査(三月廿日)		反 當 種 實 收 量	
	草 丈	尺間穗數	昭和四年度	一ヶ年平均
一、無肥料區	二尺九七	二二三本	石五四八	石八二六
二、無窒素區	一、八〇	二六、〇	五八八	一、〇九五
三、無磷酸區	二、四九	四五、八	一、二〇三	一、二九一
四、無加里區	一、七八	五七、五	一、三四〇	一、二四四
五、完全區	二、九〇	八九、五	三、二二二	三、一三三
六、完石全灰區	二、八二	九六、三	二、九九八	三、〇五九
				九八

右成績ニ依レバ大麥作ハ完全石灰區、完全區最モ收量多ク無加里區、無窒素區、無磷酸區之ニ次ギ無肥料區最モ劣ル
 小麥作ハ完全區最モ收量多ク完全石灰區、無磷酸區、無加里區、無窒素區此ニ次ギ無肥料區最モ劣ル
 二、肥料三要素適量試驗

當場圃場ニ於ケル大麥作ニ對スル肥料三要素ノ適當ナル配合量ヲ檢知セン爲メ左記設計ニ基キ試驗ヲ施行セリ

(一) 試驗設計

(1) 一區面積 四坪二合 (收量調査面積三坪)

(2) 供試作物品種 大麥 關取種

(3) 供用肥料

(4) 窒素質肥料 硫酸アンモニア

(5) 磷酸質肥料 過磷酸石灰

(6) 加里質肥料 硫酸加里

(7) 尙各區肥料酸性中和量ノ炭酸石灰ヲ加用セリ

(二) 試驗區名反當三要素施用量並ニ試驗成績

試驗區	反 當 要 素 量			生育調査(三月廿日)		反 當 種 實 收 量	
	窒 素	磷 酸	加 里	草 長	尺間莖數	昭和四年	三ヶ年平均
1、一、一、一、一區	一貫	一	一	二尺二二	三八、五本	石二、一三九	石二、〇一九
2、二、一、一、一區	二	一	一	二、二一〇	四五、三	二、八六九	二、六三一
3、三、一、一、一區	三	一	一	二、二二六	五四、八	三、一九四	三、一四五
4、一、二、一、一區	一	二	一	二、二三四	四七、五	三、〇九六	三、四三二

15、四、五、三、區	四	五	三	二、六二	八一、五	四、八六九	四、二四五	七
14、三、五、三、區	三	五	三	二、五四	七九、五	四、七三九	四、六五八	四
13、二、五、三、區	二	五	三	二、四〇	七四、八	四、二八〇	四、七〇五	三
12、三、四、二、區	三	四	二	二、二四	七五、三	四、二二四	四、二五七	六
11、二、四、二、區	二	四	二	二、五〇	六七、〇	四、六〇一	四、二一八	八
10、一、四、二、區	一	四	二	二、四六	六六、八	四、二八七	四、二七二	五
9、三、三、二、區	三	三	二	二、六二	七一、五	四、八五四	四、八四七	一
8、二、三、二、區	二	三	二	二、四四	六一、三	四、〇一四	三、七一五	一
7、一、三、二、區	一	三	二	二、三三	四九、〇	二、九四六	三、二〇七	一四
6、三、二、一、區	三	二	一	二、三四	五五、八	三、六一一	三、五三三	一二
5、二、二、一、區	二	二	一	二、六五	五六、五	三、二九八	三、一〇一	一六

16、二、六、三、區	二	六	三	二、五九	八一、〇	四、六六六	四、二二五	九
17、三、六、三、區	三	六	三	二、五一	七八、〇	四、八五四	四、七五九	二
18、四、六、三、區	四	六	三	二、三三	七七、八	四、三五八	四、一三一	一〇

右成績ニ依レバ三、三、二區收量最モ多ク三、六、三區、二、五、三區等此ニ次ギ一、一、一區最モ劣ル尙ホ更ニ繼續シテ試験ヲ行ヒ正確ヲ期セントス

三、大豆粕硫酸アンモニヤ配合試験
大麥作ニ對スル大豆粕ト硫酸アムモニヤノ適當ナル配合量ヲ檢知セン爲ニ左記設計ニ基キ試験ヲ施行セリ

(一) 試驗設計

(イ) 一區面積 二坪七合八勺(收量調査面積一坪五合)

(ロ) 供試作物品種 大麥關取種

(ハ) 試驗區名 反當施肥量

大豆粕一枚半區	一五〇	一〇、五〇〇	三、四二〇	一六、九八〇	二三、一一一
大豆粕一枚區	一五〇貫	七、〇〇〇	四、五五〇	一七、二三五	二四、六六七
大豆粕一枚半區	一五〇	一〇、五〇〇	三、四二〇	一六、九八〇	二三、一一一
大豆粕一枚區	一五〇貫	七、〇〇〇	四、五五〇	一七、二三五	二四、六六七

大豆粕 二枚區	一五〇	一四、〇〇〇	一一、二七五	一六、七二〇	一一、五五六
大豆粕 二枚半區	一五〇	一七、五〇〇	一、一三五	一六、四六五	二〇、〇〇〇
大豆粕 三枚區	一五〇	二一、〇〇〇	—	一六、二〇五	一八、四四四
硫酸アムモニア區	一五〇	—	六、八二五	一七、七五〇	二七、七七八

各區共反當三要素量左ノ如シ

窒素 二貫二三五

磷酸 四貫〇〇〇

加里 二貫〇〇〇

藥灰中磷酸ハ算入セズ

肥料施用法ハ各區共全量ヲ元肥トス

(二) 試驗成績

試驗區名	調查項目		生育調査 (三月廿日)		反當種實收量		硫酸區ニ對スル百分比
	草丈	尺間莖數	尺	本	昭和四年度	三ヶ年平均	
硫酸アムモニア區	二、四三	六二、〇	二、四三	六二、〇	三、四〇五	四、〇三四	一〇〇
大豆粕一枚區	二、三八	六三、〇	二、三八	六三、〇	三、二九三	四、二六八	一〇六

大豆粕一枚半區	二、二八	四八、八	二、八三〇	三、九一七	九七
大豆粕二枚區	二、三八	五五、〇	三、四四九	四、二五四	一〇五
大豆粕二枚半區	二、三二	五六、五	二、九八一	四、一九二	一〇四
大豆粕三枚區	三、三七	五〇、三五	三、〇七一	四、〇七四	一〇一

右ノ成績ニ依レバ大豆粕一枚區收量最上位ニシテ尙ホ大豆粕ヲ増施スルニ從ヒ收量ハ漸減ノ傾向ヲ示ス

四、硫酸アムモニア、過磷酸石灰施用時期試驗
小麥作ニ對スル硫酸アムモニア及過磷酸石灰ノ適當ナル施用時期ヲ檢知セン爲ニ左記設計ニ基キ試驗ヲ施行セリ

(一) 試驗設計

(イ) 試驗區名

- 一、硫酸過磷酸元肥區 (標準區)
- 二、硫酸一月追肥區
- 三、硫酸二月追肥區
- 四、硫酸三月追肥區
- 五、硫酸四月追肥區
- 六、過磷酸一月追肥區

- 七、過磷酸二月追肥區
- 八、過磷酸三月追肥區
- 九、過磷酸四月追肥區
- 十、硫安過磷酸一月追肥區
- 十一、硫安過磷酸二月追肥區
- 十二、硫安過磷酸三月追肥區
- 十三、硫安過磷酸四月追肥區

(二) (ハ) (ロ)
 供試作物品種 小麥 赤達摩種
 反當肥料施用量

肥料名	反當施用量	施用元量	反當三要素量
堆肥	一五〇貫	全量	窒素 二、四七〇
硫酸アムモニア	八	追肥區ハ半量元肥トシ他ノ半量ヲ各日十五日追肥トス	磷酸 四、〇五〇
過磷酸石灰	一八	同上	加里 一、八七五
藥灰	二五	全量	肥

(二) 試驗成績

試驗區名	調查項目		反當種實收量	元肥區ニ對スル收量百分比
	生育調査 (三月廿日)	尺間莖數		
一、硫安過磷酸追肥區	二、八四	一、一〇〇 ^本	三、八〇〇 ^石	一〇〇
二、硫安一月追肥區	二、六八	一、〇九、〇	三、七八六	一〇四
三、硫安二月追肥區	二、四八	一、〇六、〇	三、〇四五	九八
四、硫安三月追肥區	二、一一	一、一四、〇	二、九二七	九五
五、硫安四月追肥區	二、六〇九	一、〇五、〇	二、九三九	九五
六、過磷酸一月追肥	二、七二	一、一四、〇	三、八〇九	九八
七、過磷酸二月追肥	二、一四	一、二七、五	三、八四〇	一〇六
八、過磷酸三月追肥	二、六一	九、六〇	三、二二七	一〇〇
九、過磷酸四月追肥	二、六二	一、〇四、〇	三、〇九三	九九

十、硫安過磷酸 一月追肥	一一、二五	一一一、五	三、六二七	四、〇一一	一〇四
十一、硫安過磷酸二月追肥	一一、六五	二〇七、五	三、八四八	四、〇一一	一〇四
十二、硫安過磷酸三月追肥	一一、〇一	一一四、〇	三、九八四	四、〇〇五	一〇四
十三、硫安過磷酸四月追肥	一一、一九	一〇八、〇	三、三二五	三、六六四	九五

右ノ成績ニ依レバ硫安アムモニア及過磷酸石灰ハ全量ヲ元肥トスルヨリモ半量ヲ追肥トスルヲ可トシ追肥時期ハ硫酸アムモニア一月中旬過磷酸二月中旬ヲ適期トス

五、新肥料肥効試験

目的 最近市販ノ新肥料ロイナホス、ニトロホスカ等ノ肥効ヲ檢知セントス

方法 左記ノ設計ニヨリ「ポット」試験ヲ行ヒタリ

- (一) 各試験共通設計
- 一、ワグネル氏ポットヲ使用シ一鉢六本立各三區制
 - 一、供試土 壤 當場畑心土
 - 一、供試麥品種名 大麥關取種
 - 一、肥料施用法 全量元肥

(二) 施肥量

試驗區名	調查項目	肥 量				
		窒素質肥料	過磷酸石灰	硫酸加里	窒 素	磷 酸
無 窒 素 區	稈長 (六月七日)	一	一〇、二六	五、一〇	—	二〇
標 準 區	尺 間	—	一〇、二六	五、一〇	—	二〇
大 豆 粕 區	莖 數	—	一〇、二六	五、一〇	—	二〇
無 窒 素 區	種 實 收 量	—	一〇、二六	五、一〇	—	二〇
標 準 區	標準區ニ對スル比率	—	一〇、二六	五、一〇	—	二〇
大 豆 粕 區		—	一〇、二六	五、一〇	—	二〇
無 窒 素 區		—	一〇、二六	五、一〇	—	二〇
標 準 區		—	一〇、二六	五、一〇	—	二〇
大 豆 粕 區		—	一〇、二六	五、一〇	—	二〇

ロイナホス區	二、二二	二、三五	四、八〇	九三
ニトロホスカ區	二、二七	二、四〇	四、七〇	九一

第一 依賴分析

大正十二年三月三十一日千葉縣告示第一三七號ニヨリ規定セラレタル千葉縣農事試驗場依賴分析規定ニ基キ土壤肥料、農産物、農産製造品、飼料、灌漑水其ノ他農事ニ關係アル物料ノ分析依賴ニ應ジ分析ヲ施行セリ
其ノ種類及點數並ニ成分數左ノ如シ

種別	點數		成分數	數
	點	數		
土壤	一八	一	八一	
肥料	二一	四	五五	
農産物	四〇	三	一〇〇	
灌漑水	三四	一	三四	
計	一一三	一	二七〇	

第三 施肥標準調査

縣下各郡ニ亙リ地方的代表土壤若クハ作物ノ生育著シク不良ナル地方又ハ從來ノ施肥慣行法ガ合理的ナラズト認ムル地方ノ土壤ヲ選定シ其ノ性狀ヲ研究調査シテ主要農作物ニ就キ施肥ノ標準ヲ査定シ其ノ成績ニ依リ各地ニ於ケル施肥標準ヲ樹テ之ヲ當業者ニ周知セシメ以テ肥料ノ經濟的施用ヲ圖ランガ爲メニ左記項目ニ就キ調査及試驗ヲ施行セリ
本調査ハ本年度ヲ以テ繼續第八年目ナリ

一、施肥慣行調査

海上郡、香取郡、印旛郡内各町村ニ依頼シ其ノ町村内ノ代表的箇所ニ就キ麥作ニ對スル施肥慣行狀態其他ヲ調査セリ

二、原地調査

海上郡、香取郡、印旛郡内ニ於テ左記十九箇所ノ畑原地ニ就キ調査セリ

(一) 海上郡

矢指村、豊岡村、旭町、瀧郷村、嚶鳴村、

(二) 香取郡

栗源町、東城村、中和村、豊和村、豊浦村、本大須賀村、多古町

(三) 印旛郡

八街町、公津村、根郷村、志津村、船穂村、久住村、白井村
右ノ内代表土壤選定地名左ノ如シ

(一) 海上郡
 豊岡村大字親田、旭町大字林

(二) 香取郡
 東城村大字小南、豊浦村大字二ノ分目、多古町大字飯笹

(三) 印旛郡
 根郷村大字石川彌勒飛地、久住村大字磯部、白井村大字白井

三、栽培試験

(一) 「ポット」栽培試験
 (イ) 「ポット」ハ面積一反歩ノ二萬分ノ一ニ相當磁製ノモノヲ用フ
 (ロ) 大麥「ポット」無肥料栽培試験
 前記選定土壤ヲ採集シ肥料三要素試験施行ノ準備トシテ其ノ土壤ノ地力ヲ均一ナラシメン爲メ昭和四年度夏作ニ於テ蕎麥ノ無肥料栽培ヲ施行セリ

(ロ) 大麥「ポット」三要素試験
 大正十五年度ニ於テ選定採集セル東葛飾郡、千葉郡、市原郡、内九箇所ノ土壤ニ就テ當場網室内ニ於テ大麥作ニ對スル肥料三要素試験ヲ施行セリ
 其ノ成績(三ヶ年平均「ポット」當種實收量)左ノ如シ

東葛飾郡

地名、地質、土性	試験年度比率	「ポット」當種實收量				
		完全區	磷酸増施肥區	無加里區	無磷酸區	無窒素區
川間村 船形	大正十五年 昭和三年 三ヶ年平均	八、〇 匁	八、九 匁	七、二 匁	二、八 匁	一、〇 匁
第四紀新層砂壤土	完全區ニ對スル 百分比	一〇〇	一一一	九〇	三五	一三
福田村 瀬戸ノ内	自大正十五年 至昭和三年 三ヶ年平均	五、九	五、九	五、五	三、三	一、二
第四紀古層壤土	完全區ニ對スル 百分比	一〇〇	一〇〇	九三	五六	二〇
鎌ヶ谷村 道野邊	自大正十五年 至昭和三年 三ヶ年平均	四、六	六、一	四、四	二、九	一、二
第四紀古層壤土	完全區ニ對スル 百分比	一〇〇	一三三	九六	六三	二四
千葉郡						
地名、地質、土性	試験年度比率	「ポット」當種實收量				
		完全區	磷酸増施肥區	無加里區	無磷酸區	無窒素區

地名、地質、土性	試験年度比率	「ポット」當種實收量					
		完全區	磷酸増施肥區	無加里區	無磷酸區	無窒素區	無肥料區
檢見川町稻毛	自大正十五年 至昭和三年 平均	五、一	五、三	五、四	四、二	一、二	〇、八
第四紀新層砂土	完全區ニ對スル 百分	一〇〇	一〇四	一〇六	八二	二四	一六
横橋村長沼	自大正十五年 至昭和三年 平均	五、一	四、九	四、一	三、一	一、二	一、〇
第四紀古層壤土	完全區ニ對スル 百分	一〇〇	九六	八〇	六一	三三	二〇
譽田村高田	自大正十五年 至昭和三年 平均	六、八	六、七	五、七	四、三	一、四	一、二
第四紀古層壤土	完全區ニ對スル 百分	一〇〇	九九	八四	六三	二二	一八
市原郡							
地名、地質、土性							
濕津村潤井戸	自大正十五年 至昭和三年 平均	三、六	四、九	三、七	一、六	一、五	〇、六
完全區							
磷酸増施肥區							
無加里區							
無磷酸區							
無窒素區							
無肥料區							

地名、地質、土性	試験年度比率	「ポット」當種實收量					
		完全區	磷酸増施肥區	無加里區	無磷酸區	無窒素區	無肥料區
第四紀古層壤土	完全區ニ對スル 百分	一〇〇	一三六	一〇三	四四	四二	七一
姉崎町島原	自大正十五年 至昭和三年 平均	七、二	七、八	六、四	五、五	一、六	一、五
第四紀古層壤土	完全區ニ對スル 百分	一〇〇	一〇八	八九	七六	三二	三二
里見村徳氏	自大正十五年 至昭和三年 平均	七、四	七、三	六、六	五、〇	一、七	一、八
第三紀層砂壤土	完全區ニ對スル 百分	一〇〇	九九	八九	六八	二三	二四
君津郡							
昭和二年度ニ於テ選定採集セル君津郡、安房郡、夷隅郡内七箇所ノ土壤ニ就キ當場網室内ニ於テ大麥作ニ對スル肥料三要素試験ヲ施行セリ其ノ成績（ニヶ年平均「ポット」當種實收量）左ノ如シ							
地名、地質、土性							
清川村長須賀	昭和二年 至昭和三年 平均	四、五	四、三	三、七	二、〇	二、六	〇、九
完全區							
磷酸増施肥區							
無加里區							
無磷酸區							
無窒素區							
無肥料區							

地名、地質、土性	試驗年度比率	「ポット」當種實收量					
		完全區	磷酸増施區	無加里區	無磷酸區	無窒素區	
第四紀新層砂壤土	完全區ニ對スル 百分分	一〇〇	一一三	一一〇	一〇四	二二八	二二五
第四紀古層砂壤土	完全區ニ對スル 百分分	一〇〇	七二	八七	八〇	一三	一二
周西村 中野	昭和二年 昭和三年 平均年度	六、九	七、八	七、六	七、二	二、九	一、七
龜山村 坂畑	昭和二年 昭和三年 平均年度	六、〇	四、三	五、二	四、八	〇、八	〇、七
第四紀新層砂壤土	完全區ニ對スル 百分分	一〇〇	九六	八二	四四	五八	二〇
安房郡							
地名、地質、土性	試驗年度比率	「ポット」當種實收量					
平群村 吉澤	昭和二年 昭和三年 平均年度	六、九	六、四	六、八	六、〇	〇、九	一、三
第三紀層 埴土	完全區ニ對スル 百分分	一〇〇	九三	九九	八七	一三	一九

地名、地質、土性	試驗年度比率	「ポット」當種實收量					
		完全區	磷酸増施區	無加里區	無磷酸區	無窒素區	
健田村 瀬戸	昭和二年 昭和三年 平均年度	七、二	七、三	六、六	六、五	二、一	一、四
第四紀新層砂壤土	完全區ニ對スル 百分分	一〇〇	一〇一	九二	九〇	二九	一九
夷隅郡							
地名、地質、土性	試驗年度比率	「ポット」當種實收量					
總元村 堀ノ内	昭和二年 昭和三年 平均年度	六、八	七、三	六、四	七、八	一、〇	〇、九
第四紀新層埴壤土	完全區ニ對スル 百分分	一〇〇	一〇七	一〇一	一一五	一五	一三
長者町 江場戸	昭和二年 昭和三年 平均年度	六、〇	五、二	三、六	四、六	二、三	一、九
第四紀新層砂壤土	完全區ニ對スル 百分分	一〇〇	八、七	六〇	七七	三八	三二

昭和三年度ニ於テ選定採集セル長生郡、山武郡、匝瑳郡内八箇所ノ土壤ニ就キ當場網室内ニ於テ大麥作ニ對スル肥料三要素試験ヲ施行セリ

其ノ成績(第一年度目「ポット」當種實收量)左ノ如シ
長生郡

地名、地質、土性	試驗年度比率	「ポット」當種實收量						
		完全區	磷酸増施肥區	無加里區	無磷酸區	無窒素區		
一ノ宮町城脇	昭和三年度	五、〇	六、一	五、一	四、五	三、五		
第四紀新層砂土	完全區ニ對スル百分比	一〇〇	一二三	一〇二	九〇	七〇		
日吉村長富	昭和三年度	九、三	九、二	七、〇	八、二	一、四		
第四紀新層砂土	完全區ニ對スル百分比	一〇〇	九九	七五	八八	一五		
本納町小萱場	昭和三年度	六、九	六、九	五、九	六、六	一、五		
第四紀新層砂土	完全區ニ對スル百分比	一〇〇	一〇〇	八六	九六	一二二		
白里村南今泉	昭和三年度	八、五	七、四	八、〇	七、八	三、九		
第四紀新層砂土	完全區ニ對スル百分比	一〇〇	八七	九四	九二	四六		
日向村大木	昭和三年度	二、五	二、二	一、八	一、七	一、八		
第四紀古層砂壤土	完全區ニ對スル百分比	二〇〇	八八	七二	六八	七二		
千代田村岩山	昭和三年度	三、九	五、一	三、六	二、二	一、九		
第四紀古層砂壤土	完全區ニ對スル百分比	一〇〇	一三一	九二	三一	四九		
榮村栢田	昭和三年度	二、一	四、九	〇、四	一、七	二、〇		
地名、地質、土性 <th>試驗年度比率</th> <th>完全區</th> <th>「ポット」當種實收量</th> <th>磷酸増施肥區</th> <th>無加里區</th> <th>無磷酸區</th> <th>無窒素區</th> <th>無肥料區</th>	試驗年度比率	完全區	「ポット」當種實收量	磷酸増施肥區	無加里區	無磷酸區	無窒素區	無肥料區
第四紀古層砂壤土	完全區ニ對スル百分比	一〇〇	一〇〇	八六	九六	一二二	一二三	一二三

地名、地質、土性	試驗年度比率	「ポット」當種實收量						
		完全區	磷酸増施肥區	無加里區	無磷酸區	無窒素區		
白里村南今泉	昭和三年度	八、五	七、四	八、〇	七、八	三、九		
第四紀新層砂土	完全區ニ對スル百分比	一〇〇	八七	九四	九二	四六		
日向村大木	昭和三年度	二、五	二、二	一、八	一、七	一、八		
第四紀古層砂壤土	完全區ニ對スル百分比	二〇〇	八八	七二	六八	七二		
千代田村岩山	昭和三年度	三、九	五、一	三、六	二、二	一、九		
第四紀古層砂壤土	完全區ニ對スル百分比	一〇〇	一三一	九二	三一	四九		
榮村栢田	昭和三年度	二、一	四、九	〇、四	一、七	二、〇		
地名、地質、土性 <th>試驗年度比率</th> <th>完全區</th> <th>「ポット」當種實收量</th> <th>磷酸増施肥區</th> <th>無加里區</th> <th>無磷酸區</th> <th>無窒素區</th> <th>無肥料區</th>	試驗年度比率	完全區	「ポット」當種實收量	磷酸増施肥區	無加里區	無磷酸區	無窒素區	無肥料區
第四紀古層砂壤土	完全區ニ對スル百分比	一〇〇	一〇〇	八六	九六	一二二	一二三	一二三

第四紀新層砂壤土	完全區ニ對スル 百分比	一〇〇	一二三三	一九	八一	九五	三八
南條村 柴崎	昭和三年度	六、七	八、一	五、〇	六、二	二、七	三、五
第四紀新層砂土	完全區ニ對スル 百分比	一〇〇	一二二	七五	九三	四〇	五二

(二) 原地試驗

原地試驗設計梗概

原地試驗地ハ「ポット」試驗並ニ分析試驗ニ供用セル土壤ヲ採集セル箇所又ハ其ノ附近ニ設置シ「ポット」試驗並ニ分析試驗成績ヲ參照シ肥料ノ種類ハ可成其ノ地方ノ慣用肥料又ハ割安肥料ヲ基礎トシ左試五區乃至六區ノ試驗區ヲ設ケ一區ノ面積ヲ十坪乃至三十坪トシ、各區ニ區制トシ試驗ヲ施行セリ

試驗區名

- 一、地方在來區 其ノ地方ノ慣行肥料配合法ニ依ル
- 二、標準區 其ノ地方ノ慣行肥料ヲ用ヒ「ポット」並ニ分析試驗成績ヲ基礎トシテ配合ス
- 三、標準石灰加用區 右標準區ニ配合量ニ更ニ土壤ノ酸度ニ應ジテ石灰ヲ加用セルモノ
- 四、増施區 標準區ノ配合ヨリモ各成分ヲ増加セルモノ
- 五、減施區 標準區ノ配合ヨリモ各成分ヲ減ジタルモノ
- 六、第二減施區 減施區ノ配合ヨリモ各成分ヲ更ニ減ジタルモノ

但シ此區ハ標準區ノ肥料價額ノ餘リ高價ナル箇所ニノミ設置スルモノトス

栽培管理方法

試驗設置初年度ニ於テハ當場ヨリ直接出張指導シ次年度ヨリハ豫メ各擔當者ニ對シ「施肥標準調査原地試驗擔當者心得書」ヲ配布シ置キ之ニ基キ試驗ヲ施行セシムルト同時ニ當該郡及町村農會ニ依頼シ之ガ指導監督ヲナサシムルモノトス

(イ) 肥料試驗

大正十一年度ニ於テ土壤ヲ採集シ「ポット」栽培試驗及土壤分析試驗ヲ終リ更ニ大正十四年度ニ於テ原地無肥料栽培ヲ終了セル東葛飾郡、千葉郡、市原郡内十四箇所ノ原地ニ付キ水稻ニ對スル栽培試驗ヲ施行セリ
其ノ原地試驗成績 (第四年目反當玄米收量比率) 左ノ如シ

東葛飾郡

試驗地擔當者氏名 性質	試驗年度比率	反當玄米收量			
		地方在來區	標準區	標準石灰加用	減施區 増施區
七福村岩名 大瀧 勇助	昭和四年度	八七、〇九〇 ^貫	九六、五七〇 ^貫	九九、六三〇 ^貫	八五、九八〇 ^貫 一〇〇、〇八〇 ^貫
第四紀新層土 富勢村神立前 飯田 佐太郎	在來區ニ對スル 百分比 昭和四年度	一〇〇	一一一	一一四	九九 一一五
		一〇六、九四〇	一二四、二二〇	一二七、一六〇	一二四、五二〇 一二四、九六〇

試驗地擔當者氏名 性質	試驗年度比率	反當玄米收量				
		地方在來區	標準區	標準石灰加用區	減施肥區	
第四紀新層埴土 在來區ニ對スル 百分比	昭 和 四 年 度	一〇〇	一一八	一一三	一〇一	一〇一
馬橋村七右衛門新田 小林岩松	昭 和 四 年 度	九五、九四三	一一六、二三三	一一七、三六七	一一七、五九六	一三五、一〇三
第四紀新層埴土 在來區ニ對スル 百分比	昭 和 四 年 度	一〇〇	八九	八〇	一〇七	一〇三
風早村塚崎 富澤英太郎	昭 和 四 年 度	九三、一〇〇	八二、五一七	七四、六三三	九九、二八四	九六、二〇〇
第四紀新層埴土 在來區ニ對スル 百分比	昭 和 四 年 度	一〇〇	一一六	一一〇	一〇七	一一七
中山町高石神辰關 鈴木芳三郎	昭 和 四 年 度	七一、九二〇	八四、八二〇	八一、六二〇	七二、七二〇	七二、六四〇
第四紀新層埴土 在來區ニ對スル 百分比	昭 和 四 年 度	一〇〇	一一一	一一二	一一三	一四一
幕張町天戸 湯淺幹	昭 和 四 年 度	一一一、八六〇	一一九、四六〇	一二三、二二〇	一一八、五四〇	一二六、八〇〇
第四紀新層埴土 在來區ニ對スル 百分比	昭 和 四 年 度	一〇〇	一一七	一一〇	一〇六	一〇四
更科村下泉 猪野正夫	昭 和 四 年 度	一〇六、二六〇	九八、九一〇	九三、七二〇	九七、一一〇	一〇一、九七〇
第四紀新層埴土 在來區ニ對スル 百分比	昭 和 四 年 度	一〇〇	九三	八八	九一	九六
都村邊田 高山市平	昭 和 四 年 度	一〇九、八七六	一〇九、五三七	一〇二、九七八	一〇二、三三三	一〇七、四二五
第四紀新層埴土 在來區ニ對スル 百分比	昭 和 四 年 度	一〇〇	一〇〇	九四	九三	九八
生濱町濱野 大健源太郎	昭 和 四 年 度	七九、六三〇	八九、八八〇	八〇、三四〇	七八、五四〇	八五、八〇〇
第四紀新層埴土 在來區ニ對スル 百分比	昭 和 四 年 度	一〇〇	一一三	一〇一	九九	一〇八

試驗地擔當者氏名 性質	試驗年度比率	反當玄米收量				
		地方在來區	標準區	標準石灰加用區	減施肥區	
第四紀新層埴土 在來區ニ對スル 百分比	昭 和 四 年 度	一〇〇	一一三	一〇一	九九	一〇八
馬橋村七右衛門新田 小林岩松	昭 和 四 年 度	九五、九四三	一一六、二三三	一一七、三六七	一一七、五九六	一三五、一〇三
第四紀新層埴土 在來區ニ對スル 百分比	昭 和 四 年 度	一〇〇	八九	八〇	一〇七	一〇三
風早村塚崎 富澤英太郎	昭 和 四 年 度	九三、一〇〇	八二、五一七	七四、六三三	九九、二八四	九六、二〇〇
第四紀新層埴土 在來區ニ對スル 百分比	昭 和 四 年 度	一〇〇	一一六	一一〇	一〇七	一一七
中山町高石神辰關 鈴木芳三郎	昭 和 四 年 度	七一、九二〇	八四、八二〇	八一、六二〇	七二、七二〇	七二、六四〇
第四紀新層埴土 在來區ニ對スル 百分比	昭 和 四 年 度	一〇〇	一一一	一一二	一一三	一四一
幕張町天戸 湯淺幹	昭 和 四 年 度	一一一、八六〇	一一九、四六〇	一二三、二二〇	一一八、五四〇	一二六、八〇〇
第四紀新層埴土 在來區ニ對スル 百分比	昭 和 四 年 度	一〇〇	一一七	一一〇	一〇六	一〇四
更科村下泉 猪野正夫	昭 和 四 年 度	一〇六、二六〇	九八、九一〇	九三、七二〇	九七、一一〇	一〇一、九七〇
第四紀新層埴土 在來區ニ對スル 百分比	昭 和 四 年 度	一〇〇	九三	八八	九一	九六
都村邊田 高山市平	昭 和 四 年 度	一〇九、八七六	一〇九、五三七	一〇二、九七八	一〇二、三三三	一〇七、四二五
第四紀新層埴土 在來區ニ對スル 百分比	昭 和 四 年 度	一〇〇	一〇〇	九四	九三	九八
生濱町濱野 大健源太郎	昭 和 四 年 度	七九、六三〇	八九、八八〇	八〇、三四〇	七八、五四〇	八五、八〇〇
第四紀新層埴土 在來區ニ對スル 百分比	昭 和 四 年 度	一〇〇	一一三	一〇一	九九	一〇八

試驗地擔當者氏名 性質	試驗年度比率	反當				
		地方在來區	標準區	標準區 加用石灰	收量	
五幡町五所 淺野清吉	昭和四年度	七一、五二〇 ^貫	七五、二八〇 ^貫	—	六六、九八〇 ^貫	六九、二四〇 ^貫
第四紀新層壤土	在來區ニ對スル 百分比	一〇〇	一〇五	—	九四	九七
東海村海保 田中宗吉	昭和四年度	五〇、〇八〇	四九、七四〇	五七、二〇〇	五〇、八八〇	三九、二〇〇
第四紀新層砂壤土	在來區ニ對スル 百分比	一〇〇	九九	一一四	一一二	七九
養老村山田 伊藤定次	昭和四年度	九八、六四〇	九二、五〇四	八七、九八〇	一〇一、四四〇	九四、六八〇
第四紀新層砂壤土	在來區ニ對スル 百分比	一〇〇	九四	八九	一〇三	九六
高瀧村本郷 小宮七郎	昭和四年度	九六、三二〇	九八、八八〇	九九、二六〇	九八、〇八〇	九五、八〇〇
第四紀新層壤土	在來區ニ對スル 百分比	一〇〇	一〇三	一〇三	一〇二	九九

大正十二年度ニ於テ土壤ヲ採集シ「ポット」栽培試験及土壤分析試験ヲ終リ更ニ大正十五年度ニ於テ原地無肥料栽培ヲ終了セル君津郡、安房郡、夷隅郡内十五箇所ノ原地ニ付キ水稻ニ對スル栽培試験ヲ施行セリ
其ノ原地試験成績(第三年目反當玄米收量比率)左ノ如シ

試驗地擔當者氏名 性質	試驗年度比率	反當				
		地方在來區	標準區	標準區 加用石灰	收量	
市東村瀬又 時田忠吾郎	昭和四年度	一〇九、五六〇	一〇六、六六〇	一〇二、四八〇	九九、八四〇	一〇二、〇六〇
第四紀新層砂壤土	在來區ニ對スル 百分比	一〇〇	九七	九四	九一	九三
巖根村高柳 重城安藏	昭和四年度	七〇、六四〇 ^貫	六七、九二〇 ^貫	六八、六八〇 ^貫	六七、三〇〇 ^貫	六六、七四〇 ^貫
第四紀新層砂壤土	在來區ニ對スル 百分比	一〇〇	九六	九七	九五	九四

中川村横田 近藤彌三郎	昭和四年度 在來區ニ對スル 百分 比	七九、七七〇	八一、二八〇	七四、七六〇	七二、三六〇	六七、一一〇
吉野村川田 行貝長吉	昭和四年度 在來區ニ對スル 百分 比	一〇〇	一〇二	九四	九一	八四
小糸村大井戸 鈴木貞一	昭和四年度 在來區ニ對スル 百分 比	七二、七二〇	七六、〇八〇	七五、九二〇	七五、〇六〇	七七、五八〇
第四紀新層埴壤土	昭和四年度 在來區ニ對スル 百分 比	一〇〇	一〇五	一〇四	一〇三	一〇七
環村東和田 前田林藏	昭和四年度 在來區ニ對スル 百分 比	七一、五二〇	六六、〇八〇	六五、六四〇	五九、五六〇	五八、二〇〇
第四紀古層砂壤土	昭和四年度 在來區ニ對スル 百分 比	一〇〇	九二	九二	八三	八一
松丘村大戸見 宮崎元吉	昭和四年度 在來區ニ對スル 百分 比	九二、八五〇	八六、五〇五	八五、六九五	八八、八七五	七七、四六〇

第三紀層砂壤土	在來區ニ對スル 百分 比	一〇〇	九三	九二	九六	八三				
							試驗地擔當者氏名 性質			
安房郡	試驗年度比率	地方在來區	反	當	支	米	收	量		
岩井町竹ノ内 山ノ井眞治	昭和四年度 在來區ニ對スル 百分 比	早	害	ノ	爲	メ	收	穫	皆	無
丸村中島 御子神代治郎	昭和四年度 在來區ニ對スル 百分 比	六二、八二五	六六、六七五	六六、三六〇	六四、三二〇	六三、三〇〇	六三、三〇〇	六三、三〇〇	六三、三〇〇	六三、三〇〇
第四紀新層埴壤土	昭和四年度 在來區ニ對スル 百分 比	一〇〇	一〇六	一〇六	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一
九重村江田 安西彌一	昭和四年度 在來區ニ對スル 百分 比	一一〇、五五〇	九七、〇六五	一〇二、五五五	一〇三、九三五	一〇四、八〇五	一〇四、八〇五	一〇四、八〇五	一〇四、八〇五	一〇四、八〇五
第四紀新層埴壤土	昭和四年度 在來區ニ對スル 百分 比	一〇〇	八八	九三	九四	九四	九四	九四	九四	九四

試驗地擔當者氏名 地質土性	試驗年度比率	反當玄米收量			
		地方在來區	標準區	標準石灰加用區	減施區 増施區 參考區
神戶村大石 島田萬吉	昭和四年度 在來區ニ對スル 百分	九九、九〇〇	九五、八三三	九四、二三三	一一九、五一四 100、809、400
第四紀新層砂壤土		一〇〇	九六	九四	八一 101 九一
田原村來秀 土屋芳太郎	昭和四年度	三四、五八〇	四〇、五〇〇	四八、一六〇	六八、二八〇 六、三〇〇
蛇紋岩層埴土	在來區ニ對スル 百分	一〇〇	一二七	一三九	一九四 六
夷隅郡					
總野村松野 磯野六三郎	昭和四年度	八一、八四〇	七五、二四〇	九一、六八〇	八一、五二〇 七、四〇〇
第四紀新層壤土	在來區ニ對スル 百分	一〇〇	九一	一〇七	一〇〇 六
西畑村紙敷 君塚四郎	昭和四年度	九一、二六〇	八七、〇〇〇	八一、〇二〇	八四、五八五 七、九五

試驗地擔當者氏名 地質土性	試驗年度比率	反當玄米收量			
		地方在來區	標準區	標準石灰加用區	減施區 増施區
第四紀新層砂壤土	在來區ニ對スル 百分	一〇〇	九五	八八	九三 六
國吉町刈谷 國吉小學校長	昭和四年度	四一、九六七	四七、八八三	四九、九六七	五四、一三三 四、三三
第三紀層壤土	在來區ニ對スル 百分	一〇〇	一一四	一一九	一二九 一〇三
大多喜町船子 鈴木善右衛門	昭和四年度	四六、二二〇	五〇、八八〇	六六、二六〇	五四、五二〇 四、〇〇五、三〇
第三紀層壤土	在來區ニ對スル 百分	一〇〇	一一〇	一四四	一一八 一四 一三〇
<p>大正十三年度ニ於テ土壤ヲ採集シ「ボット」栽培試験及土壤分析試験ヲ終リ更ニ昭和二年度ニ於テ原地無肥料栽培ヲ終了セル長生郡、山武郡、匝瑳郡内十五箇所ノ原地ニ付キ水稻ニ對スル栽培試験ヲ施行セリ</p> <p>其ノ原地試験成績(第二年度反當玄米收量比率)左ノ如シ</p> <p>長生郡</p>					
太東村椎木 太田和作兵衛	昭和四年度	六六、二四〇	六三、三二〇	六三、二八〇	六七、三〇〇 六〇、六六〇

第四紀新層砂壤土	西村小澤 關本虎次	第三紀層砂壤土	白鴻村中里 御園久平	第四紀新層砂土	茂原町鷺巢 丸喜作	第四紀新層砂壤土	長柄村國府里 大和豊治郎	第四紀新層砂壤土	反當			
									在來區ニ對スル 百分	昭和四年度	在來區ニ對スル 百分	昭和四年度
一〇〇	七三、四四〇	一〇〇	五三、五〇〇	一〇〇	早害ノ爲メ收穫皆無	一〇〇	九七、三六〇	一〇〇	九六	九六	一〇二	九二
	七九、〇〇五	一〇八	七一、六八〇	一三四			九七、六六〇	一〇〇	九五、九四〇	九四、二八〇		
	六五、六四〇	八九	七三、八〇〇	一三八			一〇二、〇二〇	一〇四				
	七五、八七〇	一〇三	五八、三六〇	一〇九			九五、九四〇	九九				
	六三、六四五	八七	七三、九六〇	一三八			九四、二八〇	九七				

山武郡	試驗地擔當者氏名 性質	試驗年度比率	在來區ニ對スル 百分	昭和四年度	在來區ニ對スル 百分	昭和四年度	在來區ニ對スル 百分	昭和四年度	在來區ニ對スル 百分	昭和四年度	反當			
											地方在來區	標準區	加標準用石灰區	減施區
大網町大網 川島琢		昭和四年度	八八、七七〇	八八、七七〇	八三、七〇〇	七九、三五〇	九三、五四〇	一〇〇	六四、六〇〇	四九、四四〇	五〇、八四〇	五〇、九六〇	六四、三二〇	一〇五
片貝町片貝 中村喜代平		昭和四年度	一〇〇	一〇一	九四	八九	一〇五	一〇〇	六四、六〇〇	四九、四四〇	五〇、八四〇	五〇、九六〇	六四、三二〇	一〇五
第四紀新層砂土		昭和四年度	一〇〇	七七	七九	七九	一〇〇	一〇〇	一〇七、三三〇	一一七、九四〇	一一〇、三三〇	一一一、三三〇	一一四、三四〇	一〇〇
源村下布田 並木智		昭和四年度	一〇〇	一一〇	一〇三	一〇四	一〇七	一〇〇	一〇七、三三〇	一一七、九四〇	一一〇、三三〇	一一一、三三〇	一一四、三四〇	一〇〇
第四紀新層壤土		在來區ニ對スル 百分	一〇〇	一一〇	一〇三	一〇四	一〇七	一〇〇	一〇六、七二〇	一〇一、六〇〇	九九、五六〇	一〇九、二四〇	九六、二二〇	一〇〇
豐岡村蕪木 押田半平		昭和四年度	一〇〇	一一〇	一〇三	一〇四	一〇七	一〇〇	一〇六、七二〇	一〇一、六〇〇	九九、五六〇	一〇九、二四〇	九六、二二〇	一〇〇

試驗地擔當者氏名 性質	試驗年度比率	反當				
		地方在來區	標準區	玄米	收量	
第四紀新層砂壤土	在來區ニ對スル 百分比	一〇〇	九五	一〇二	一〇三	
二川村小池 伊藤文四郎	昭和四年度	九一、六四〇	八九、七二〇	八九、七二〇	八八、七二〇	
第四紀新層砂壤土	在來區ニ對スル 百分比	一〇〇	九八	九八	九七	
橫芝町橫芝 前川皆次郎	昭和四年度	七六、六〇〇	七五、五六〇	七八、〇六〇	七七、六四〇	
第四紀新層砂土	在來區ニ對スル 百分比	一〇〇	九九	一〇二	一〇一	
匝瑳郡	試驗年度比率					
試驗地擔當者氏名 性質		地方在來區	標準區	玄米 加用石灰區	收量 減施區	增施區
八日市場町下富谷 鈴木周之助	昭和四年度	一一一、五〇〇	一一三、九二〇	一〇六、三〇〇	一一〇、二〇〇	一一五、三四〇
第四紀新層砂壤土	在來區ニ對スル 百分比	一〇〇	一〇二	九五	九一	一〇三

試驗地擔當者氏名 性質	試驗年度比率	反當				
		地方在來區	標準區	玄米	收量	
野田村野手 石田常太郎	昭和四年度	九三、二二二	一〇〇、五五五	一〇八、二三八	一〇三、七六二	一二八、四二八
第四紀新層砂壤土	在來區ニ對スル 百分比	一〇〇	一〇八	一一六	一一一	一二七
椿海村春海 梶山市次郎	昭和四年度	七八、七六〇	八二、六八〇	七八、六二〇	七九、五〇〇	七八、五〇〇
第四紀新層砂土	在來區ニ對スル 百分比	一〇〇	一〇五	一〇〇	一〇一	一〇〇
豊畑村川口 渡邊榮	昭和四年度	八六、六〇〇	八六、四〇〇	七九、六六〇	七七、五〇〇	七八、〇八〇
第四紀新層砂土	在來區ニ對スル 百分比	一〇〇	一〇〇	九二	八九	九〇

大正十四年度ニ於テ土壤ヲ採集シ「ポット」栽培試験及土壤分析試験ヲ終リ更ニ昭和三年度ニ於テ原地無肥料栽培ヲ終
了セル海上郡、香取郡、印旛郡内十五箇所ノ原地ニ付キ水稻ニ對スル栽培試験ヲ施行セリ
其ノ原地試験成績(第一年目反當玄米收量比率)左ノ如シ

海上郡

矢指村椎名内 加瀬榮治	第四紀新層埴壤土 在來區ニ對スル 百分	昭和四年度	八五、五九〇 貫	九九、六二五 貫	八四、八二五 貫	七八、九九五 貫	八一、一〇五 貫	香取郡	試驗年度比率	反當玄米收量				
										地方在來區	標準區	標準用石灰區	減施區	増施區
船木村三門 石毛丑松	昭和四年度	八〇、五〇〇	七九、五〇〇	八〇、三〇〇	八四、四〇〇	八五、四〇〇	九五	第四紀新層埴壤土 在來區ニ對スル 百分	昭和四年度	一〇〇	一一〇	一〇〇	一〇五	一〇六
嚶鳴村高生 崎山俊治郎	昭和四年度	六七、四〇〇	七四、一八〇	七四、〇六〇	六四、一六〇	七〇、五〇〇	九五	第四紀新層埴壤土 在來區ニ對スル 百分	昭和四年度	一〇〇	一一〇	一〇〇	一〇五	一〇六
橋村石出 保立莊一郎	昭和四年度	五七、〇〇〇 貫	六五、二二〇 貫	七二、六〇〇 貫	七三、七四〇 貫	五九、八二〇 貫		試驗年度比率	昭和四年度	一〇〇	一一四	一二七	一二九	一〇五

府馬町府馬 菅谷麗	第四紀新層砂壤土 在來區ニ對スル 百分	昭和四年度	八八、〇四〇 <th rowspan="2">八五、五二〇 <th rowspan="2">八五、二〇〇 <th rowspan="2">九二、〇二〇 <th rowspan="2">八五、二六〇 <th rowspan="2">香取町新市場 木内幸司</th> <th rowspan="2">第四紀新層砂壤土 在來區ニ對スル 百分</th> <th rowspan="2">昭和四年度</th> <th rowspan="2">一一二、五〇〇 <th rowspan="2">九七、一八〇 <th rowspan="2">一〇三、九六〇 <th rowspan="2">九七、七〇〇 <th rowspan="2">八六、五四〇 <th rowspan="2">新島村扇島 窪木辰雄</th> <th rowspan="2">昭和四年度</th> <th rowspan="2">一〇〇 <th rowspan="2">九五 <th rowspan="2">一〇一 <th rowspan="2">九五 <th rowspan="2">八四 <th rowspan="2">第四紀新層壤土 在來區ニ對スル 百分</th> <th rowspan="2">昭和四年度</th> <th rowspan="2">病蟲害ノ爲收穫皆無</th> </th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th>	八五、五二〇 <th rowspan="2">八五、二〇〇 <th rowspan="2">九二、〇二〇 <th rowspan="2">八五、二六〇 <th rowspan="2">香取町新市場 木内幸司</th> <th rowspan="2">第四紀新層砂壤土 在來區ニ對スル 百分</th> <th rowspan="2">昭和四年度</th> <th rowspan="2">一一二、五〇〇 <th rowspan="2">九七、一八〇 <th rowspan="2">一〇三、九六〇 <th rowspan="2">九七、七〇〇 <th rowspan="2">八六、五四〇 <th rowspan="2">新島村扇島 窪木辰雄</th> <th rowspan="2">昭和四年度</th> <th rowspan="2">一〇〇 <th rowspan="2">九五 <th rowspan="2">一〇一 <th rowspan="2">九五 <th rowspan="2">八四 <th rowspan="2">第四紀新層壤土 在來區ニ對スル 百分</th> <th rowspan="2">昭和四年度</th> <th rowspan="2">病蟲害ノ爲收穫皆無</th> </th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th>	八五、二〇〇 <th rowspan="2">九二、〇二〇 <th rowspan="2">八五、二六〇 <th rowspan="2">香取町新市場 木内幸司</th> <th rowspan="2">第四紀新層砂壤土 在來區ニ對スル 百分</th> <th rowspan="2">昭和四年度</th> <th rowspan="2">一一二、五〇〇 <th rowspan="2">九七、一八〇 <th rowspan="2">一〇三、九六〇 <th rowspan="2">九七、七〇〇 <th rowspan="2">八六、五四〇 <th rowspan="2">新島村扇島 窪木辰雄</th> <th rowspan="2">昭和四年度</th> <th rowspan="2">一〇〇 <th rowspan="2">九五 <th rowspan="2">一〇一 <th rowspan="2">九五 <th rowspan="2">八四 <th rowspan="2">第四紀新層壤土 在來區ニ對スル 百分</th> <th rowspan="2">昭和四年度</th> <th rowspan="2">病蟲害ノ爲收穫皆無</th> </th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th>	九二、〇二〇 <th rowspan="2">八五、二六〇 <th rowspan="2">香取町新市場 木内幸司</th> <th rowspan="2">第四紀新層砂壤土 在來區ニ對スル 百分</th> <th rowspan="2">昭和四年度</th> <th rowspan="2">一一二、五〇〇 <th rowspan="2">九七、一八〇 <th rowspan="2">一〇三、九六〇 <th rowspan="2">九七、七〇〇 <th rowspan="2">八六、五四〇 <th rowspan="2">新島村扇島 窪木辰雄</th> <th rowspan="2">昭和四年度</th> <th rowspan="2">一〇〇 <th rowspan="2">九五 <th rowspan="2">一〇一 <th rowspan="2">九五 <th rowspan="2">八四 <th rowspan="2">第四紀新層壤土 在來區ニ對スル 百分</th> <th rowspan="2">昭和四年度</th> <th rowspan="2">病蟲害ノ爲收穫皆無</th> </th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th>	八五、二六〇 <th rowspan="2">香取町新市場 木内幸司</th> <th rowspan="2">第四紀新層砂壤土 在來區ニ對スル 百分</th> <th rowspan="2">昭和四年度</th> <th rowspan="2">一一二、五〇〇 <th rowspan="2">九七、一八〇 <th rowspan="2">一〇三、九六〇 <th rowspan="2">九七、七〇〇 <th rowspan="2">八六、五四〇 <th rowspan="2">新島村扇島 窪木辰雄</th> <th rowspan="2">昭和四年度</th> <th rowspan="2">一〇〇 <th rowspan="2">九五 <th rowspan="2">一〇一 <th rowspan="2">九五 <th rowspan="2">八四 <th rowspan="2">第四紀新層壤土 在來區ニ對スル 百分</th> <th rowspan="2">昭和四年度</th> <th rowspan="2">病蟲害ノ爲收穫皆無</th> </th></th></th></th></th></th></th></th></th></th>	香取町新市場 木内幸司	第四紀新層砂壤土 在來區ニ對スル 百分	昭和四年度	一一二、五〇〇 <th rowspan="2">九七、一八〇 <th rowspan="2">一〇三、九六〇 <th rowspan="2">九七、七〇〇 <th rowspan="2">八六、五四〇 <th rowspan="2">新島村扇島 窪木辰雄</th> <th rowspan="2">昭和四年度</th> <th rowspan="2">一〇〇 <th rowspan="2">九五 <th rowspan="2">一〇一 <th rowspan="2">九五 <th rowspan="2">八四 <th rowspan="2">第四紀新層壤土 在來區ニ對スル 百分</th> <th rowspan="2">昭和四年度</th> <th rowspan="2">病蟲害ノ爲收穫皆無</th> </th></th></th></th></th></th></th></th></th>	九七、一八〇 <th rowspan="2">一〇三、九六〇 <th rowspan="2">九七、七〇〇 <th rowspan="2">八六、五四〇 <th rowspan="2">新島村扇島 窪木辰雄</th> <th rowspan="2">昭和四年度</th> <th rowspan="2">一〇〇 <th rowspan="2">九五 <th rowspan="2">一〇一 <th rowspan="2">九五 <th rowspan="2">八四 <th rowspan="2">第四紀新層壤土 在來區ニ對スル 百分</th> <th rowspan="2">昭和四年度</th> <th rowspan="2">病蟲害ノ爲收穫皆無</th> </th></th></th></th></th></th></th></th>	一〇三、九六〇 <th rowspan="2">九七、七〇〇 <th rowspan="2">八六、五四〇 <th rowspan="2">新島村扇島 窪木辰雄</th> <th rowspan="2">昭和四年度</th> <th rowspan="2">一〇〇 <th rowspan="2">九五 <th rowspan="2">一〇一 <th rowspan="2">九五 <th rowspan="2">八四 <th rowspan="2">第四紀新層壤土 在來區ニ對スル 百分</th> <th rowspan="2">昭和四年度</th> <th rowspan="2">病蟲害ノ爲收穫皆無</th> </th></th></th></th></th></th></th>	九七、七〇〇 <th rowspan="2">八六、五四〇 <th rowspan="2">新島村扇島 窪木辰雄</th> <th rowspan="2">昭和四年度</th> <th rowspan="2">一〇〇 <th rowspan="2">九五 <th rowspan="2">一〇一 <th rowspan="2">九五 <th rowspan="2">八四 <th rowspan="2">第四紀新層壤土 在來區ニ對スル 百分</th> <th rowspan="2">昭和四年度</th> <th rowspan="2">病蟲害ノ爲收穫皆無</th> </th></th></th></th></th></th>	八六、五四〇 <th rowspan="2">新島村扇島 窪木辰雄</th> <th rowspan="2">昭和四年度</th> <th rowspan="2">一〇〇 <th rowspan="2">九五 <th rowspan="2">一〇一 <th rowspan="2">九五 <th rowspan="2">八四 <th rowspan="2">第四紀新層壤土 在來區ニ對スル 百分</th> <th rowspan="2">昭和四年度</th> <th rowspan="2">病蟲害ノ爲收穫皆無</th> </th></th></th></th></th>	新島村扇島 窪木辰雄	昭和四年度	一〇〇 <th rowspan="2">九五 <th rowspan="2">一〇一 <th rowspan="2">九五 <th rowspan="2">八四 <th rowspan="2">第四紀新層壤土 在來區ニ對スル 百分</th> <th rowspan="2">昭和四年度</th> <th rowspan="2">病蟲害ノ爲收穫皆無</th> </th></th></th></th>	九五 <th rowspan="2">一〇一 <th rowspan="2">九五 <th rowspan="2">八四 <th rowspan="2">第四紀新層壤土 在來區ニ對スル 百分</th> <th rowspan="2">昭和四年度</th> <th rowspan="2">病蟲害ノ爲收穫皆無</th> </th></th></th>	一〇一 <th rowspan="2">九五 <th rowspan="2">八四 <th rowspan="2">第四紀新層壤土 在來區ニ對スル 百分</th> <th rowspan="2">昭和四年度</th> <th rowspan="2">病蟲害ノ爲收穫皆無</th> </th></th>	九五 <th rowspan="2">八四 <th rowspan="2">第四紀新層壤土 在來區ニ對スル 百分</th> <th rowspan="2">昭和四年度</th> <th rowspan="2">病蟲害ノ爲收穫皆無</th> </th>	八四 <th rowspan="2">第四紀新層壤土 在來區ニ對スル 百分</th> <th rowspan="2">昭和四年度</th> <th rowspan="2">病蟲害ノ爲收穫皆無</th>	第四紀新層壤土 在來區ニ對スル 百分	昭和四年度	病蟲害ノ爲收穫皆無
第四紀新層砂壤土 在來區ニ對スル 百分	昭和四年度	一〇〇	一一四	一二七	一二九	一〇五	九五	第四紀新層砂壤土 在來區ニ對スル 百分	昭和四年度	一〇〇	一一一	一一一	九六	一〇〇	新島村扇島 窪木辰雄	昭和四年度	一〇〇	九五	一〇一	九五	八四	第四紀新層壤土 在來區ニ對スル 百分	昭和四年度	病蟲害ノ爲收穫皆無	

試驗地擔當者氏名 地質土性	試驗年度比率	反當				收量
		地方在來區	標準區	標準用石灰	減施肥區	
高岡村高岡 青野弘	昭和四年度 在來區ニ對スル 百分比	八七、九四〇	八三、七四〇	九五、七四〇	九二、七二〇	八八、三四〇
第四紀新層砂壤土	昭和四年度 在來區ニ對スル 百分比	一〇〇	九五	一〇九	一〇五	一〇〇
印旛郡						
八生村實田 飯田安治	昭和四年度 在來區ニ對スル 百分比	七七、二五〇 ^貫	九〇、二一〇 ^貫	八一、六三〇 ^貫	七八、六三〇 ^貫	八三、六七〇 ^貫
第四紀新層砂壤土	昭和四年度 在來區ニ對スル 百分比	一〇〇	一一七	一〇六	一一二	一一〇八
本埜村下會根 海老原作藏	昭和四年度	九四、二六〇	九〇、三三〇	九三、三六〇	八四、九〇〇	九六、〇〇〇
第四紀新層壤土	在來區ニ對スル 百分比	一〇〇	九六	九九	九〇	一一〇二
永治村平塚 大井宗藏	昭和四年度	一三〇、九六〇	一三五、六二〇	一二五、三四〇	一三一、三六〇	一二五、三〇〇

第四紀新層砂壤土	在來區ニ對スル 百分比	一〇〇	一〇四	九六	一〇〇	八八
千代田村羽鳥 鈴木卯之助	昭和四年度	五六、八四〇	六五、八五〇	六六、一八〇	六一、五九〇	六八、一〇〇
第四紀新層砂壤土	在來區ニ對スル 百分比	一〇〇	一一六	一一六	一〇八	一一〇
和田村寒風 石田輝義	昭和四年度	九一、五八〇	九〇、〇八〇	八九、三〇〇	八八、五四〇	九〇、〇二〇
第四紀新層砂壤土	在來區ニ對スル 百分比	一〇〇	九八	九八	九七	九八
富里村久能 藤崎源之助	昭和四年度	一〇四、四九〇	一一一、一五〇	一一五、二九〇	一〇六、一一〇	一一二、一一〇
第四紀新層砂土	在來區ニ對スル 百分比	一〇〇	一〇六	一〇〇	一〇二	一〇七

四、土壤分析檢定
前記本年度ニ於テ選定採集セル海上郡、香取郡、印旛郡内八箇所ノ土壤ニ付キ左記分析ヲ施行セリ
1、理學的分析

ロ、化學的分析

- (一) 水分定量
- 有機物定量
- 酸度測定
- (二) 窒素及磷酸ニ對スル吸收率檢定
- (三) 窒素全量ノ定量
- (四) 石灰ノ定量
- (五) 有効性磷酸及加里ノ定量
- (六)
- (七)

以上

農林省委托小麥地方的試驗部

一、小麥品種特性調査

小麥品種豫備試驗ニ編入スベキ品種又ハ交配用母本トシテ供用スル株ヲ撰出センガタメニ二百六十品種ニ就キ一品種一坪一區制ニテ調査ヲ行ヒタリ

二、小麥品種豫備試驗

小麥品種撰拔試驗供用品種ヲ撰拔センガタメニ小麥鴻巢四號以下五十六品種五坪一區制ニテ試驗ヲ行ヒタルガ小麥鴻巢四號、同七號、同二十五號、小麥鴻巢三五七號、同九二一號、埼玉小麥八號、同二十九號等ハ相當有望ト認メタルヲ以テ次年度ヨリ撰拔試驗ニ編入シ試驗セントス

三、小麥品種撰拔試驗

製粉用或ハ醸造用トシテ經濟的優良品種ヲ撰出センガタメニ小麥鴻巢十二號以下二十一品種ニ就キ一品種一區制一區十坪宛ヲ以テ試驗ヲ施行セリ
其ノ成績概要次ノ如シ

品 種 名	取寄先	出穂期	成熟期	稈 長	反當收量	一子升重	製粉歩合	品 質
新田早生七號	群馬	五月七日	六月五日	九〇、二	一、三五三	三二七、三	六六、〇%	中
東 錦	千葉	五月〇七	六月一七	七八、八	一、七一五	三三五、五	六九、七	中
志 賀	千葉	五月〇四	六月一四	七六、四	一、六六二	三三七、五	六八、二	中
白達摩四號	千葉	五月〇三	六月一四	七三、五	一、七〇四	三三六、三	六八、八	中
白達摩崎一號	埼玉	五月〇四	六月一四	七四、九	一、七七五	三四〇、五	六八、八	中
スネキリ十五號	群馬	五月〇五	六月一四	七三、七	一、七〇〇	三三八、〇	六七、二	中
身 拔	舊畿内	五月〇七	六月一六	九四、八	一、七一九	三二六、三	六六、五	下
小麥鴻巢十二號	鴻巢	五月〇三	六月一五	七五、〇	〇、七〇四	二九〇、九	六一、六	下

相州千葉	ダールマ	達摩	三州小竹	尾島早生	細稈	細稈	同廿六號	小麥鴻巢廿四號	赤達摩七號	同廿三號
千葉	群馬	東京	鹿兒島	東京	千葉	舊畿内	鴻巢	鴻巢	千葉	鴻巢
五、一〇	五、一四	五、一六	五、〇九	五、〇八	五、〇五	五、〇七	四、二八	五、〇五	五、〇二	四、二六
六、一九	六、一九	六、二一	六、一九	六、一七	六、一五	六、一六	六、一三	六、一三	六、一三	六、一三
九四、四	八一、八	八五、〇	一〇一、一	九三、〇	九三、〇	八九、七	七八、五	七八、七	八四、七	六八、七
一、二一七	一、〇七七	一、〇三七	一、七二四	一、一三八	一、三〇四	一、四〇九	一、九三四	〇、九二七	二、一三三	一、〇二〇
三二一、〇	三〇一、五	二九一、八	三〇九、八	三一八、五	三二七、三	三二七、〇	三五四、〇	二九七、〇	三三五、五	三三〇、三
六九、〇	六七、二	六六、四	六七、八	六八、一	六七、五	六九、〇	七三、七	六九、九	六三、七	六七、七
下	下	下	下	中	中	中	上	下	中	中

若槻	宮城坊主卅二號	宮城
千葉	五、二	六、一七
五、一〇	六、一九	一〇四、七
一、八三五	三三一、〇	七〇、七
中	中	中

本年ノ成績ニ徴スルニ小麥鴻巢二十六號鴻巢ハ有望ナルモノノ如シ之ニ亞ギ白達摩埼玉號(埼玉)稍良好ナリ
 四、小麥人工交配試験
 現存スル小麥品種ヨリモ更ニ經濟的優良ナル品種ヲ育成センガタメニ農林省農事試驗場ヨリ配付セラレタル材料及昨年
 度本試験ヨリ撰出シタル材料ヲ栽植育成ヲ行ヒタルガ其ノ概況次ノ如シ

世代	供試系統數	撰拔系統數	世代	供試系統數	撰拔系統數
第二二代	二、一〇四株	三九株	第六代	一五株	〇株
第三代	七	二	第七代	一八	六
第四代	一五五	三四	第八代	二	〇
第五代	一〇七	三三			

尙小麥鴻系一五六二號以下十一系統ハ成績佳良ナリシヲ以テ翌年度ヨリ品種豫備試験ニ編入試験セントス
 五、小麥品種ノ耐肥性ニ關スル變異及諸形質トノ相關現象ノ研究
 小麥品種ノ多肥料ニ對スル影響ヲ知り併セテ耐肥性ト他形質間ニ於ケル相關々係ヲ研究シ尙耐肥性品種育成ノ資ニ供セ

シガタメニ百七十品種ニ就キ一區一坪一區制ニテ多肥料栽培ヲ行ヒタリ、尙繼續研究ヲ要ス

六、耐寒性弱キ小麥品種ニ對スル栽培法ニ關スル研究
當地方ニ於テ耐寒性弱キ小麥品種ニ對シ特殊ノ栽培法ヲ試ミ以テ耐寒性弱キ點ヲ補ヒ得ルヤ否ヤヲ知ラントシ、江島神力(福岡)、伊賀筭後六八四號(愛媛)及赤達摩七號(千葉)ニ對シ播種期ニ關スル研究ヲ行ヒ、又江島神力ニ對シテハ別ニ踏壓回数及時期ニ關スル研究ヲ行ヒタルガ一般ニ耐寒性弱キ品種ハ地方ノ播種適期ヨリモ稍遅ク播キタル方成績佳ナルモノノ如シ踏壓ニ關シテハ更ニ研究ヲ要ス

七、肥料ノ配合及用量ガ小麥ノ收量及品質ニ及ボス影響試驗
製粉用並ニ醸造用小麥ニツキ肥料三要素ノ配合ガ小麥ノ收量及品質ニ及ボス影響ヲ知ランガタメニ赤達摩七號及相州ノ兩品種ニ就キ肥料三要素ノ配合ヲ異ニセル十六區ヲ設ケ試驗セルニ各種ノ點ヲ綜合シ窒素、磷酸、加里ガ反當三貫、同三貫、同二貫ノ組合ノモノ最モ良好ナルヲ知レリ、尙繼續試驗セントス

八、小麥品種ノ風土の感應ニ關スル地方共通試驗
小麥品種ノ風土の感應ノ差異ヲ研究センガタメニ農林省ヨリ本試驗ヲ委托セラレタル各地ノ代表品種十種ヲ一品種五坪一區制ニテ栽培ヲ行ヒタリ

農業技術員練習生養成部

第一、練習生養成

本年度都市町村又ハ之ニ準ズベキモノノ農業技術員養成概況次ノ如シ

計畫ニ記載セル養成人員	實際採用		練習生終了人員	同上就職別人員	同上平均月俸	練習生養成事業開始以來ノ終了人員
	甲	乙				
一〇	二〇	三〇	一〇	二〇	三〇	一〇
二〇	二〇	三〇	一〇	二〇	三〇	一〇
三〇	二〇	三〇	一〇	二〇	三〇	一〇
四〇	二〇	三〇	一〇	二〇	三〇	一〇
五〇	二〇	三〇	一〇	二〇	三〇	一〇
六〇	二〇	三〇	一〇	二〇	三〇	一〇
七〇	二〇	三〇	一〇	二〇	三〇	一〇
八〇	二〇	三〇	一〇	二〇	三〇	一〇
九〇	二〇	三〇	一〇	二〇	三〇	一〇
一〇〇	二〇	三〇	一〇	二〇	三〇	一〇

備考
甲、主要食糧農産物改良増殖獎勵規程ニヨルモノ
乙、下級農會技術員施設獎勵規程ニヨルモノ

第二、練習生教授事項

教授科目	擔當講師官職氏名	教授時間(一ケ年通算)	實地練習時間(一ケ年通算)
種藝ニ關スル事項	地方農林技師 伊藤祐信	一一八	五三九
	同 山田澤治		
	同 毛利虎雄		
園藝ニ關スル事項	農林技師 今井千代吉	一一三	五二六
	同 宇野七郎		
	同 地方農林技師 林脩巳		
農藝化學ニ關スル事項	農林技師 渡邊誠三	六七	四六
	同 山川峯吉		
	同 鈴木壽		
地方農林技師	宇田川畏三	六七	四六
	農林技師 中山房雄		

病菌害虫ニ關スル事項	農林技手 中臺昭之助 倉田忠良	一〇六	七三
試験並ニ圃場管理ニ關スル事項	同 地方農林技師 林 脩 巳 毛利虎雄	五	一五
倫理農政經濟	地方技師 堀江 浩	二八	
實地見學			月一回乃至二回 四六
町村農會見習			夏季休暇中二週間 (四八時間)
農業演習	農林技手 鳥居喜久次郎	每週一回乃至二回 一五	
農事獎勵事項(縣)	縣地方農林技師 筒井順太郎	五	
穀物検査事項	地方農林技師 上島與三次 農林技手 健石藤吉郎	六	一五
肥料取締概要	農林技手 金澤 重	六	

養蠶栽桑	地方農林技師 西村武生	六	四
水産養殖	同 農林技手 長峯千山 内藤新吾	四	四
産業組合	主事 打越顯太郎	八	
小作調停法	小作官 松下兼美	四	
珠算	商業學校教諭 三谷逸郎	二八	
農會事業一般	千葉縣會幹事 山崎時治郎 同 技師 伊藤正平 同 高橋深藏 同 技手 林 善 男 同 宮崎治三郎 同 荒木暎五郎 同 永野孝平	八四	

計	同書記 農林技手	藤田忠三郎 鳥居喜久次郎	五九六	一、四二三
---	-------------	-----------------	-----	-------

第三、本年修得セシモノ左ノ如シ

鈴木三郎	齋藤新	戸村成
渡邊亮	久我數馬	和田重雄
藤平桂太郎	岩立利男	磯部方
齋藤哲夫	川上忠男	鈴口顯
關上敦	山口春治	川名健治
田野榮一	鶴澤孝一郎	大野一之
安川榮藏	橋本信良	初芝幸平
齋藤重雄	吉岡猛	山初芝幸平
鈴木平		山口實
湯淺精一	吉田巖	四關慶治
加瀬幸英	山口益夫	向後幸雄
狩野治一		

本年農業見學生トシテ修得セシモノ左ノ如シ

庶務部

一、文書收受

四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	一月	二月	三月	計
二九一	一三三二	二二五	二六八	一七六	二四二	三七六	六二〇	二七二	二七五	二三七	三六〇	三、五七四

二、文書發送

四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	一月	二月	三月	計
四一六	三三一	二八五	三六〇	二二八	二九六	一八二	一七六	一八六	三三三	一八六	二九七	三、一八五

三、參觀人員

千葉郡市	東葛飾	印旛	香取	海上	山武	長生	夷隅	安房	君津	市原	匝瑳	縣外	計
二、二五六	一三三一	四六五	三二六	一二七	九六九	三一九	一二二	一二五	三六九	七二八	二九七	八七六	七、三〇九

四、職員出張

管内	八八	委託試驗
管外	三	講習
	八二	講話
	六九	指導
	九〇	調査
	三六	視察
	三二	審査
	四〇	事務打合せ
	三五	農實具演
	一八	副業獎勵
	八	會議
	五二八	合計

五、質問 應答

稻作ニ關スル件	七五	蔬菜ニ關スル件	一六三	土質肥料作物ニ關スル件	七六
麥作ニ關スル件	三七	果樹特用作物ニ關スル件	八五	合計	五七四
雜穀ニ關スル件	四二	病虫害ニ關スル件	九六		

14,2
1
609

終